

文部科学省委託事業

令和6年度

**よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業**

# 報 告 集



青森県道德教育推進協議会



# 発 刊 に よ せ て

青森県道徳教育推進協議会

会 長 原 子 雄 治

「特別の教科 道徳」（道徳科）は全面実施から7年目を迎えました。各種調査結果等から、当初の目的であった量的確保や質的充実の面で、一定の成果が上がっていると考えられます。しかし、変化の激しい現代社会において、子どもたちが自立した人間として、他者と共によりよく生きるために、基盤となる道徳教育の中で、「主体的、対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」の充実（更なる授業の改善）を図っていくことが強く求められています。

本県では、学校教育指導の重点として、道徳教育の充実を掲げています。この「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」もその方策の一つであり、特に、命を大切にしたり、他人を思いやったりする豊かな心の育成について、更なる研究に取り組む必要が求められているものと理解しています。

その中で、今年度は、平川市立猿賀小学校並びに平川市立尾上中学校が推進事業の委託を受け、研究を深めました。

猿賀小学校では、「自ら考え、共に学び合う子の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを目指して～」を研究主題とし、児童一人一人の実態を踏まえながら、議論につながる主発問を中心とした授業づくりの工夫に取り組みました。加えて、創立50周年に関わる活動など、特別活動における縦割り班活動による道徳教育を全教育活動に位置付けたことは、児童の一体感を高めることにもつながっていきました。

尾上中学校では、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」を研究主題に、「認めて育てる尾上中」をスローガンとし、全体計画に道徳教育に係る重点項目を設け、自校の教育課題の解決に向けて取り組んできました。その中の方策の一つに「ローテーション道徳」があり、とりわけ、道徳科の授業では「自分事として考える」「よりよく生きる喜び」を教師が強く意識するようになっていきます。

両校は共に、道徳アセスメント調査等を実施し、PDCAサイクルで研究を深め、組織的に実践研究に取り組みました。結果として、児童生徒の自己有用感・自己肯定感が低いという学校課題に、教師の授業に対する自信や児童生徒の自己肯定感が高まったり、内容によっては、自分をより厳しく評価したりと興味深い結果も得られています。また、道徳科の授業が好きだという割合が高いことは、よさの実感を示しています。

国の第4期教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）のコンセプトは「持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」であり、他との交流が欠かせない自己有用感・自己肯定感を大切にしたい児童生徒の育成は、「令和の日本型教育（令和3年答申）」の個別最適な学びと協働的な学びの実現によってなされるものと実感しています。

各学校におかれましても、両校のすばらしい実践を参考にしつつ、実態に即した形で生かしていただければ幸いに存じます。

最後に、本事業推進に当たり御支援、御尽力いただきました平川市立猿賀小学校並びに平川市立尾上中学校、中南教育事務所、平川市教育委員会をはじめ、関係の皆様は御礼を申し上げますとともに、本報告集が道徳教育の指針の一つとして活用されることを祈念し、発刊の挨拶といたします。

# 挨拶

青森県教育庁

学校教育課長 下山 敦史

道徳教育については、小学校・中学校ともに「特別の教科 道徳」が全面実施となつてから数年が経ち、道徳教育実施状況調査等からは、授業時間数の確保はもちろんのこと、児童生徒の議論が活発になるなど、全国的に量的確保、質的転換において前向きな変化が見られました。また、高等学校では、学習指導要領において、道徳教育推進教師を位置づけること、公民の「公共」「倫理」及び特別活動が道徳活動の中核的な指導の場面であることが示されたことを受け、各校の実情に合わせた取組を行っています。

こうした取組を進めている中、国が実施した小学校学習指導要領実施状況調査（第6学年対象）の結果では、「児童が道徳的価値の理解を基に自らを見つめて考えているか」「児童が道徳的な問題を多面的・多角的に考えているか」という点で、教師と児童の認識の差が大きいことが指摘されています。小・中学校においては、道徳科の特質や目標を踏まえ、「考え、議論する道徳」の質的充実と「主体的・対話的で深い学び」の視点から、引き続き授業改善を図っていく必要があります。さらに、小・中学校、高等学校を見通したとき、児童生徒のいじめや自殺等への対応が喫緊の課題であることから、学校教育全体を通じた道徳教育の推進の視点は一層重要となります。

県教育委員会では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、道徳教育の充実を学校教育指導の方針と重点の一つに掲げ、地区道徳教育研究協議会や県総合学校教育センターでの研修など、道徳教育推進のための取組を進めています。また、文部科学省委託事業「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の中で、道徳教育推進協議会の協力を頂き、研究指定校による特色ある道徳教育の実践、道徳教育パワーアップ協議会の開催等に取り組んで参りました。

今年度は、平川市教育委員会の御協力の下、平川市立猿賀小学校、平川市立尾上中学校が研究指定校として研究に取り組みされました。両校とも、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実、道徳科における多様で効果的な指導方法の改善・充実、家庭・地域との連携による道徳教育の取組など、学習指導要領の趣旨に沿った道徳教育の充実に向けた実践を通じた研究が行われました。

両校の研究は、道徳教育パワーアップ協議会において全県に向けて発信され、その成果を広く共有することができました。本報告集は、両校の取組の成果等をまとめたものですが、県内全ての学校において、児童生徒の豊かな心の育成のために有効に活用され、各校における教育活動全体を通じた道徳教育の充実に役立つことを願っております。

最後に、本報告集の作成に当たり、日々の教育実践を積み重ね、大きな研究成果を挙げられた両校と御協力いただいた平川市教育委員会、県道徳教育推進協議会会長である青森市立泉川小学校校長原子雄治先生及び副会長である外ヶ浜町立三厩中学校校長目時聖児先生をはじめとする協議会委員の皆様には感謝申し上げます。

# も く じ

○発刊によせて 青森県道徳教育推進協議会 会長 原 子 雄 治

○挨拶 青森県教育庁 学校教育課長 下 山 敦 史

## ○平川市立猿賀小学校

### よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	1
2 実施した研究内容	1
3 実施経過とその体制	3
4 取組の成果と課題	4

### 学習指導案

第1学年1組	1 1
第2学年1組	1 2
第3学年1組	1 4
第4学年1組	1 6
第5学年1組	1 8
第6学年1組	2 0
サポートルーム1	2 1
サポートルーム2	2 3

### 資料

道徳教育全体計画	2 5
----------	-----

## ○平川市立尾上中学校

### よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	2 6
2 実施した研究内容	2 7
3 実施経過とその体制	3 2
4 取組の成果と課題	3 3

### 学習指導案

第1学年1組	3 9
--------	-----

### 資料

資料1－1・1－2	4 5
資料2	4 6
資料3	4 7
道徳通信	4 8
道徳教育全体計画	5 0



# 平川市立猿賀小学校





# よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業 完了報告書 (平川市立猿賀小学校)

## 1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校では今年度、「地域を愛し、共にくらす喜び、共に学ぶ喜び、共に育つ喜びのあふれる学校『あいさつと笑顔あふれるさるかつ子』をめざす」という教育理念の基、全教育活動に取り組んできた。

今年度、「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進」について研究する機会を得たことから、校内研修の研究教科を道徳科とし、研究主題・副題を「自ら考え、共に学び合う子の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを目指して～」とした。

道徳科において主体的に考えをもたせ交流させる指導の工夫によって、児童一人一人が自己を見つめ考えを深め合うことができるようにしたり、地域の豊かな体験活動や様々な集団における交流活動から互いに思いやることができるようにしたりすることの研究を進めた。

具体的には以下の点を重点として取り組んだ。

### (1) 「特別の教科 道徳」

導入の工夫や中心発問の吟味、児童の意思表示の方法や意見交流場面の工夫等、教師の授業改善や指導方法の工夫をする。また、児童相互、教師と児童の望ましい人間関係作りに努めることで自他を認め合い思い合って、よりよく生きることを考えられるよう、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てる。

### (2) 教育活動との関連

各行事、集会等における振り返りの重視、さまざまな異年齢集団での活動、自己を見つめ頑張りを評価する活動、互いのよさや頑張りを認め合う活動の工夫等、教育活動全体との関連を図りながら道徳性を養う。

### (3) 地域素材を生かした豊かな体験活動

本校の教育理念を基に、地域の環境・人材を生かした体験活動や交流を通して地域を知り、互いを認め合い思いやる心情や態度を育てる。

その結果、以下のような成果と課題があった。

- ・全学級で研究授業を行い、研究を重ねた結果、児童が自分事として捉えるための導入場面や意思表示の方法を工夫し、教師が授業のねらいを基にして発問を吟味しながら取り組むことができた。また、ペアやグループでの意見交流、児童の考えを把握した上での指名等、積極的な交流場面を設定することができた。ただ、児童が考えを伝え合うだけでなく議論へと繋げるためには、教師が児童の言葉を繋ぐコーディネート力を高める必要がある。また、児童が友達の考えに対して自分の考えを述べる力を育てることも必要である。
- ・各教科や総合的な学習の時間、特別活動でこれまで以上に道徳的価値を意識しながら取り組むことができた。各行事や異年齢集団での活動では、振り返りを重視したことで児童が自己や周囲の頑張りに目を向けるようになり、自己肯定感を高め、思いやりと協力する心情を育てることができた。
- ・各学年とも、地域の環境や人材を生かした体験活動を行うことで、児童が地域のよさを再発することに繋がった。また、道徳科の授業に体験活動を生かしたり、地域の人材をゲストティーチャーに活用したりしたことで、児童は自分事として道徳的価値を捉えることができた。

## 2 実施した研究内容

### (1) 地域や学校が抱える課題に応じた特色ある道徳教育の取組

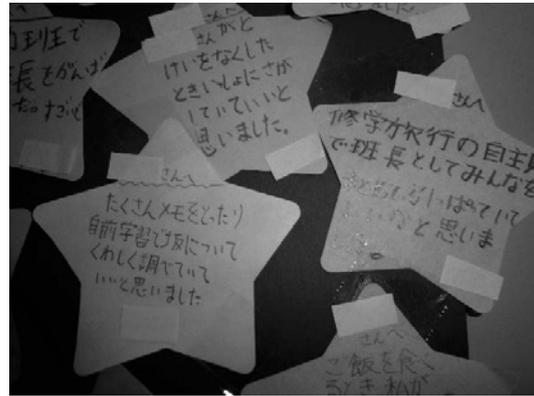
#### ① 自己肯定感を高め、自他を認め思い合うための取組

本校の課題を踏まえ、「親切、思いやり」を重視して道徳教育に取り組んでいる。自己肯定感

を高めるために、自己を見つめ日々の頑張りを評価する「さるかつ子のめあて」「がんばりの実」という活動を行った。結果ではなく努力した過程や友達に親切にできたことを毎日記入し、保護者から励ましのコメントをもらったことで、児童は自分の頑張りがよさに目を向けることができるようになった。

自他を認め思いやるために、友達の頑張りがよさを見つけカードに記入する「いいなの星空」という活動を行った。カードに書かれた内容を道徳科の授業で活用することもできた。

どちらの活動も、記入する時間の確保や発表する場の設定等、改善しながら取り組むことができた。



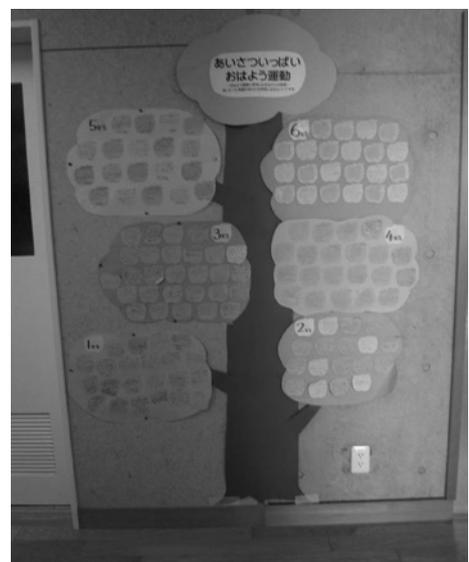
いいなの星空

② 「あいさつと笑顔あふれるさるかつ子」に向けての取組

本校が重視している「親切、思いやり」という道徳的価値に近づくため、挨拶や言葉遣いについて考えさせる活動に取り組んだ。児童同士挨拶をする活動に参加した感想を話し合わせたり、優しい言葉や傷つく言葉について考えさせたりしたことで、挨拶や言葉遣いの大切さに気付かせることができた。



優しい言葉・傷つく言葉



あいさつ運動の感想

③ 共通理解・共通実践を通した指導力の向上

共通理解の上で道徳教育推進に取り組むことができるよう、今年度1回目の提案授業を要請訪問として行った。研究協議会で平川市教育委員長内和生主任指導主事から、自分の考えのめたせ方や中心発問の吟味の重要性について指導・助言をいただき、全員で確認することができた。

7月には、筑波大学附属小学校を会場に行われた日本道徳基礎教育学会第56回研究大会「人間のよさを考えさせる『この一点に迫る発問』」に本校から2名参加し、発問の吟味を中心に、

構造的な板書や児童の考えやその変容を見取る道徳ノートの書かせ方等について学んだ。8月には、東京都台東区立根岸小学校を会場に行われた令和6年度全国小学校道徳教育研究大会第44回夏季中央研修講座に2名参加した。模擬授業を通して、役割分担を重視し考えを引き出すグループ交流の工夫、考えを表現するための他教科との関連等について学んだ。また、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官の堀田竜次氏による指導講話からも多くのことを学んだ。それぞれの県外研修で学んだことは校内で伝達し、授業に生かした。

同じく8月には、尾上中学校との合同研修において、畿央大学教授の島恒生氏から「『考え、議論する道徳』の授業づくり」について講義していただいた。発達段階に応じたねらい、めあてを提示することの効果、中心発問の吟味について学ぶことができた。特に、ねらいにつながるめあてを提示すること、中心発問の吟味について学んだことは、その後の授業研究の指針となった。

## (2) 道徳科の授業研究

### ① 研究目標

道徳科において、児童一人一人が自己を見つめ、自ら考え、自他との対話の中で考えを深めるには、考え議論するための発問の工夫、多面的・多角的な考えをもたせるための交流場面の設定や豊かな体験活動が有効であることを実践を通して明らかにしていく。

### ② 研究仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場面を効果的に設定することで、児童一人一人が考え議論し、考えを深めることができるのではないか。

### ③ 研究仮説2

道徳科と他教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連を図り、地域素材を生かした体験活動や交流活動を行うことで互いを認め合い思いやる心情や態度を育てることができるのではないか。

### ④ 研究内容

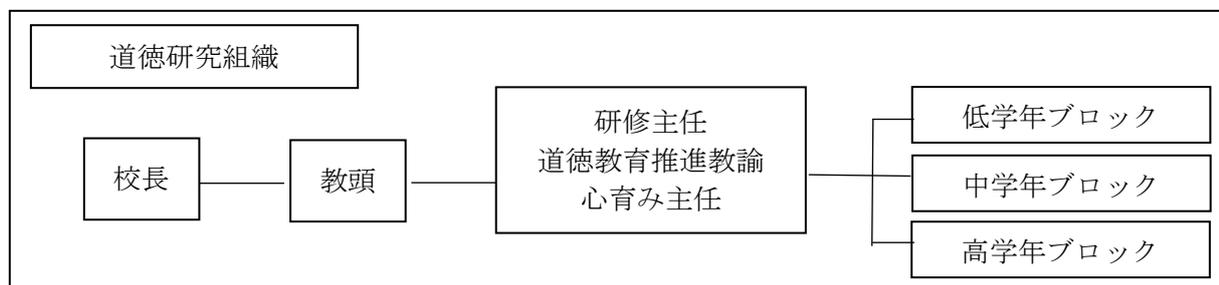
- ・自分の考えをもたせるための工夫（導入の工夫、事前アンケートやICTの活用、めあての提示、地域素材や体験活動の活用）
- ・発問の工夫（中心発問の吟味、補助発問、ゆさぶりや問い返しの発問）
- ・意見交流の工夫（意思表示の方法、ペア、グループ、全体での意見交流、板書の工夫）

## 3 実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画、別葉、年間指導計画の作成</li> <li>・実践研究計画共通理解</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの実施</li> <li>・第1回提案授業のための指導案事前検討会</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BEING①(道徳教育アセスメント)実施</li> <li>・第1回提案授業 第2学年(要請訪問) 教材名「ぎおんまつり」授業者 山口 三喜</li> </ul>	指導・助言 平川市教育委員会 主任指導主事 長内 和生 氏
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BEING①(道徳教育アセスメント)分析</li> <li>・道徳振り返りカード①実施</li> <li>・県道徳教育推進協議会への参加①(研修主任)</li> <li>・全校道徳(学校旗作り)実施</li> <li>・第3回提案授業指導案作成のための研修会</li> <li>・県外研修①(日本道徳基礎教育学会への参加)</li> </ul>	県外研修2名

8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県外研修②（全国小学校道徳教育研究会への参加）</li> <li>・ 道徳科に関わる研修会（尾上中学校との合同研修会）</li> <li>・ 校内研修（取組状況中間評価と確認）</li> </ul>	県外研修 2名 講義 畿央大学 教授 島 恒生 氏
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回提案授業のための指導案事前検討会</li> <li>・ 統合創立50周年記念式典</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回提案授業 第6学年（要請訪問） 教材名「手品師」授業者 佐藤 伸子</li> <li>・ 第3回提案授業のための指導案事前検討会</li> </ul>	指導・助言 平川市教育委員会 主任指導主事 長内 和生 氏
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BEING②(道徳教育アセスメント)実施</li> <li>・ 第3回提案授業のための指導案事前検討会</li> <li>・ 第3回提案授業 第3学年（初任者研修） 教材名「まどガラスと魚」 授業者 佐井 颯</li> </ul>	指導・助言 中南教育事務所 指導主事 外崎 正義 氏
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BEING②(道徳教育アセスメント)分析</li> <li>・ 道徳振り返りカード②実施</li> <li>・ 校内研修（成果と課題確認）</li> </ul>	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道徳教育推進会議への参加②（研修主任）</li> <li>・ 「道徳教育パワーアップ協議会」にて実践事例発表</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究紀要の作成</li> <li>・ 次年度研究についての検討</li> <li>・ 道徳振り返りカード③実施</li> </ul>	

#### 研究体制



## 4 取組の成果と課題

### (1) 「特別の教科 道徳科」に係る成果の概要

#### ①提案授業及び協議会について（2学年）

主題名 わたしたちの ちいき（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）

教材名 「ぎおんまつり」（出典：「小学 どうとく 生きる力」日本文教出版）

ねらい お囃子にかねをうまく合わせられないときの「ぼく」と、「お父さん」に励まされた後、練習を続けてお祭りに参加している「ぼく」の気持ちを考えることを通して、郷土の文化や生活に親しみや愛着をもって関わっていこうとする心情を育てる。

#### 研究内容

ア もし自分が練習で叱られる「ぼく」だったらどうするか、紅白帽子を使って自分の考えを可視化する方法を取り入れる。自分の考えを目に見える形にしてから話し合うことで、自分と同じ考えや違う考えにふれながら、主体的に話し合わせる。

イ ゲストティーチャー（八幡崎獅子踊り保存会）から、地域の行事や、どのような思いで伝統を守っているのかについての話を聞き、郷土の文化や生活にさらに親しみを持ち、愛着をもって関わっていこうとする思いを深めさせる。

授業後に行われた研究協議会では、以下のような意見（○成果、●課題）が出された。

- 紅白帽子で考えを可視化できた。みんな同じ色となったが、ゆさぶりの発問をしたのが効果的で、児童が考える時間となった。ペア学習を通して全体交流へという流れもよかった。
- 地域素材を使ったことや実際に町探検をした時の写真を見せることで身近に感じ、児童の空気が変わった。地域と繋がりがある授業で意欲につながった。ゲストティーチャーの思いや地域の祭りについての話も効果的だった。
- 板書の際、「ぼく」の気持ちの微妙な変化がわかるように、時系列がわかる板書がよかったのではないかな。
- 意見交流は意見発表で終わらせないために、次の発表につながるような手立てがあってもよかった。児童の「どうですか。」「いいと思います。」という言葉が妨げになったのではないかな。

〈長内主任指導主事からの指導・助言〉

- ・「考え、議論する」だから、考えさせなければいけない。自分で考えたものを練り直し、深く考えさせるためには、他者の意見を聞く、議論したくなる課題提示を考える必要がある。意見発表会で終わらせないために、議論する必要感が大切である。
- ・「希望と勇気、努力と強い意志」の方が強いのではないかな。伝統、文化、郷土愛にどのようにもっていくか難しかった。内容項目の重なりを意識しなければならない。
- ・道徳科の終末はまとめではない。目標ではなくねらいであり、遠い先の最終的に目指すところである。地元のお祭りの話から入り、ゲストティーチャーとして獅子踊りに携わっている本物の人の話を聞き、獅子踊りを見て、家で話題に出ることで道徳と家庭が結びつく。



自分の考えを紅白帽子で表す



地域の踊りを伝えるゲストティーチャー

## ②提案授業及び協議会について（6学年）

主題名 誠実に生きる(A 正直、誠実)

教材名 「手品師」(出典:「小学 道徳 生きる力」日本文教出版)

ねらい 迷った末に誠実に行動した手品師の思いを通して、誠実な行動は、私利私欲を優先しようとする気持ちを乗り越えた先にあることや、自分自身に誠実に行動することで喜びを得られることに気付かせ、明るい気持ちで生活しようとする心情を育てる。

研究内容

ア 葛藤する手品師の心の中を十分考えさせることで、男の子との約束を守る決断をした理由について深く考える必要感につなげる。一人一台端末で手品師の心を「心の数直線」で示し、ペアで考えを伝え合うことで、葛藤する心を多面的、多角的に考えさせる。

イ 自分を振り返る場面で、互いの頑張りやよい行いを認め合う「いいな星空」のカードを紹介する。友達に認められている安心感をもたせ、その時の気持ちを想起させる。

授業後に行われた研究協議会では、以下のような意見(○成果、●課題)が出された。

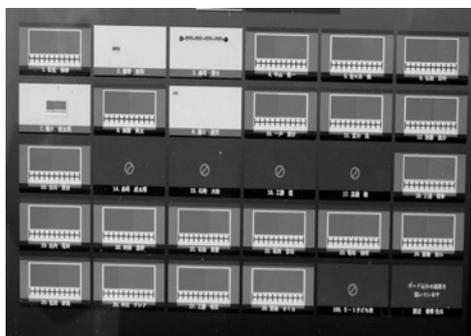
- 「自分なら」ではなく、手品師の気持ちを考えさせることで、自分の考えにとらわれることなく、葛藤する二つの心情について考えることができていた。
- 心の数直線をもとにペアで活発に意見を交換していた。日頃から根拠をもとに話し合わ

せていることが分かった。

- 男の子が悲しむから約束を守るという考えが大半だったが、そこで「悲しませたくないから約束を守るのか、守らなかったらだめなのか。」という補助発問が効果的だった。誠実に行動しないと自分の胸が痛むことに気付いていた。
- 「いいなの星空」のカードに書かれている内容を終末に生かすことができた。日頃から誠実に取り組んでいるにも関わらず、自分のことを言いたがらない児童や自分の頑張りに気付かない児童を紹介することができ、とても効果的だった。
- ペアでの交流を全体交流に生かしきれなかったことで、価値に迫る話し合いが十分でなかった。アウトプットの方法や発問の仕方をより吟味する必要がある。
- 中心発問までの時間が長かったので、時間配分の工夫が必要である。

〈長内主任指導主事からの指導・助言〉

- ・「誠実」は「正直」「思いやり」の集合体で難しい価値項目だった。誠実という評価は誰かがするもの、自分の誠実さに気付くことや語ることは難しい。それでも、普段頑張っている子どもたちにそれを気付かせ心の栄養を与えたいという意図が感じられた。
- ・自分の考えをもつことができているのにアウトプットに消極的な場合は、本時のように、「心の数直線」の活用がよい。子どもたちが書いたものをアウトプットする方法もある。
- ・行動ではなく心の内面を考える深い学びにつながる指導案である。しかし、深い学びをするためには登場人物について理解しないと心の中に入っていけない。その兼ね合いが難しい。
- ・二つの気持ちに共感させ、その葛藤を「心の数直線」でまとめた。24名中7名が大劇場、10名が男の子、7名が半分半分と3つに分かれていた。どちらか一つという極端なものではなかった。子どもたちの中で、手品師の心の中を考え、十分葛藤していた。誠実な子どもたちである。
- ・「いいなの星空」については、どの場面で、どの部分を評価するのが大事である。今回のように当たり前のようにやっていることにスポットを当てることも児童同士の絆づくりには大切なことである。



心の数直線を大型モニターで提示



心の数直線を見せ合いペアで意見交流

### ③提案授業及び協議会について（3学年）

主題名 自分を大切に（A 正直、誠実）

教材名 「まどガラスと魚」（「小学 道徳 生きる力」日本文教出版）

ねらい 千一郎の心情を考える活動を通して、正直にできないときの心苦しさと、正直に言えたときの清々しい気持ちに気づき、正直に明るい心で元気よく生活しようとする態度を育てる。

研究内容

ア 事前アンケートを行うことで自分の生活を振り返り、自分事として考えさせることができるのではないかと。また、グループトークや全体交流など、意見交流を工夫することで多様な考えにふれ正直・誠実について考えを深めさせることができるのではないかと。

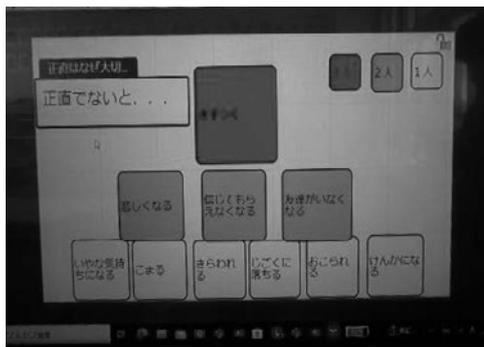
授業後に行われた研究協議会では、以下のような意見（○成果、●課題）が出された。

- 事前アンケートを行ったことによって自分事として考えることができた。アンケート結果を学習支援ソフトで分類・整理し、大型モニターで提示したことが「正直」への価値付けとなった。

- 心のバロメーターを前半と後半の2回活用したことにより、児童の心の変容が分かりやすかった。
- ペアワークで互いに感想を表すマークを記入し合っていた。意見の交流に繋がっていく方法だと感じた。また、学級全体を通して、話しやすい雰囲気づくりができていた。
- 校内研修において全員で中心発問を吟味したため、いつも以上に深く考えながら参観することができた。今後も、ねらいやめあて、中心発問を共に考えることで、活発な研究協議ができるのではないか。
- 中心発問で多くの児童に発言させ、多様な考えを出させたかった。
- おじいさんについて出された意見も板書すれば、双方の気持ちを考える手助けになったのではないか。

〈外崎指導主事からの指導・助言〉

- ・事前アンケートが効果的であった。学習支援ソフト、電子黒板を活用したまとめ方、掲示の仕方も「他者理解」に有効であった。しかし、議論を活発にするためにはアンケートからもっと多くの少数意見を拾い上げ、そこで出た人間的弱さについて発問し、話し合わせると考えを深めることができる。
- ・主人公を主語にした発問がなされていた。主人公の気持ちについて考えていく中で児童は間接的に自分事として考え、意見を発表することができるため効果的だった。
- ・主人公だけでなく他の登場人物の立場で考えさせる発問に切り替えることでより多面的、多角的な考えにふれさせることができる。



事前アンケートの活用



ペアでの交流後、感想を記号で記入し合った

#### ④道徳科の授業全体を通しての成果と課題（成果○、課題●）

- ねらいを基にめあてを考え提示したことで、本時で何を考えるのか明確にすることができた。自分自身を見つめる場面でもめあてを効果的に活用することができた。
- 発問を吟味することで発問の数を厳選し、児童にじっくりと考えさせることができた。
- 発達段階に応じて意思表示の方法を工夫することができた。低学年は一人一台端末の操作に時間を要するため、カード式の物を準備したい。
- それぞれの授業で板書の工夫があった。児童の思考の助けとなるよう今後も工夫を重ねたい。
- 特別支援学級では、写真を提示したりパワーポイントで制作したアニメーションを提示したりして教材文の理解を促したことが効果的だった。
- 学期末の道徳ノートや道徳振り返りカードの持ち帰りにより、家庭との関わりを増やすことができた。
- 議論するためには、道徳科だけでなく各教科においても交流場면을積極的に設定し、考えを発表する力とともに、友達の考えに対して質問したり意見を述べたりする力を育てていくことが必要である。
- 児童の多様な考えを引き出し議論させるには、教師自身もコーディネート力を高めなければならない。
- 中心発問や自分自身を振り返る場面で時間が足りなかった。時間配分をさらに考えなければならない。
- 高学年の教材文は長文で、内容理解にも時間が必要になる。教材文は事前に読んでおくなど指導方法を考えなければならない。

- 今年度以上に教育活動や体験活動を授業に生かせるよう、別葉と年間指導計画の見直しをさらに進める。

## (2) 教育活動との関連

これまで以上に道徳的価値を意識しながら各教科や総合的な学習の時間、特別活動に取り組み、道徳科の授業に生かしてきた。

各行事や異年齢集団での活動では、行事の感想をまとめさせたり、「さるかっこのめあて」「がんばりの実」「いいなの星空」等の活動に取り組みせたりすることで振り返りを重視してきた。

行事の感想は、各学級の代表者の感想を給食時の放送で紹介し、一年間で全員の感想が紹介されるようにした。また、「さるかっこのめあて」「がんばりの実」「いいなの星空」の活動は、以前から取り組んできた活動であるが、今年度は、記入する時間を確保し、掲示場所を工夫したり放送で紹介したりすることで共有を図るなど、改善しながら取り組んできた。

これらの振り返りが放送されると、熱心に聞き入ったり嬉しそうな表情で聞き入ったりする児童の姿が多く見られた。

活動を通して、児童が自己や周囲の頑張りを目を向けるようになり、自己肯定感を高め、思いやりと協力する心情を育てることができた。

特に、全校道徳での学校旗作りや本校の伝統であるなわとび検定では、縦割り班で協力する姿や学年を超えて応援したり賞賛したりする姿が多く見られた。



全校道徳の学校旗作り



伝統のなわとび検定



全校遠足での縦割り班活動

## (3) 地域素材を生かした豊かな体験活動

全学年が、地域の環境や人材を生かして体験活動を行うことができた。主な活動として、1年生は地域の寺社を訪ね、秋探しと地域の方と秋の飾り作りを行った。4年生は地域の方を講師に、地域環境や水生生物について学び、5年生は地域の猿賀神社の御田植え祭や苜蓿祭に参加したり、地域の方との稲作体験を行ったりした。地域の方々から職業や生き方についての話を聞く「先人講話」も行った。

地域素材を生かした体験活動を通して、児童はそれまで知らなかった地域の環境にふれたり地域の方と交流したりすることができ、地域のよさを見つけたり感じたりすることができた。

道徳科の授業においても導入や終末場面に実際の体験活動を生かすようにした。また、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の素材と密着させたことで、児童は道徳的価値を身近に感じ、自分事として考えることができた。



さまざまな体験活動



地域の方による読み聞かせ



地域の方による先人講話



(4) 調査から見られる成果

調査名	道徳アセスメントシステム BEING (図書文化社)			
調査項目	視点B (主に人との関わり)			
回答項目	1 気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている 2 気持ちは望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある 3 行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある 4 気持ちが伴わず行動も起こさない傾向にある ※2～6学年の調査項目、回答項目も同様			
調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( )		
	学年等	1 学年		
調査時期	第1回 (事業開始前)		第2回 (事業終了時)	
	令和6年6月		令和6年11月	
回答結果 割合等	回答1	73%	回答2	9%
	回答3	14%	回答4	4%
回答結果 割合等	回答1	68%	回答2	18%
	回答3	5%	回答4	9%
結果の考察	「気持ちは望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある」児童が増加した。			

調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( )		
	学年等	2 学年		
調査時期	第1回 (事業開始前)		第2回 (事業終了時)	
	令和6年6月		令和6年11月	
回答結果 割合等	回答1	76%	回答2	12%
	回答3	6%	回答4	6%
回答結果 割合等	回答1	71%	回答2	6%
	回答3	23%	回答4	0%
結果の考察	「行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある」児童が増加した。			

調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( )		
	学年等	3 学年		
調査時期	第1回 (事業開始前)		第2回 (事業終了時)	
	令和6年6月		令和6年11月	
回答結果 割合等	回答1	61%	回答2	18%
	回答3	14%	回答4	7%
回答結果 割合等	回答1	69%	回答2	14%
	回答3	14%	回答4	3%
結果の考察	「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が若干増加した。			

調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( )						
	学年等	4 学年						
調査時期	第 1 回 (事業開始前)		第 2 回 (事業終了時)					
	令和 6 年 6 月		令和 6 年 1 1 月					
回答結果 割合等	回答 1	6 4 %	回答 2	1 4 %	回答 1	6 8 %	回答 2	2 3 %
	回答 3	2 2 %	回答 4	0 %	回答 3	5 %	回答 4	4 %
結果の考察	「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が増加した。							

調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( )						
	学年等	5 学年						
調査時期	第 1 回 (事業開始前)		第 2 回 (事業終了時)					
	令和 6 年 6 月		令和 6 年 1 1 月					
回答結果 割合等	回答 1	9 0 %	回答 2	5 %	回答 1	5 8 %	回答 2	1 1 %
	回答 3	5 %	回答 4	0 %	回答 3	2 1 %	回答 4	1 0 %
結果の考察	全体的に減少傾向となった。特に回答 4 の割合が増加した。望ましい行動がとれるような工夫が必要である。							

調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( )						
	学年等	6 学年						
調査時期	第 1 回 (事業開始前)		第 2 回 (事業終了時)					
	令和 6 年 6 月		令和 6 年 1 1 月					
回答結果 割合等	回答 1	6 8 %	回答 2	2 5 %	回答 1	6 8 %	回答 2	2 5 %
	回答 3	7 %	回答 4	0 %	回答 3	4 %	回答 4	3 %
結果の考察	大きな変化は見られなかった。							

6 月と 1 1 月に全校児童を対象に、道徳性アセスメント BEING を実施し、分析結果を比較した。本校の重点項目である「親切、思いやり」について関わりのある視点 B について注目し、考察した。

学校全体としては「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童にあまり変化がなく、「気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある」児童がやや増加した学年が複数あった。

上の表にはない項目であるが、道徳性を支える 3 つの力 (共感する力、振り返る力、前向きにとらえる力) は増加しているため、今後も、児童相互、及び教師と児童の望ましい人間関係作りや、自己肯定感を高める活動に取り組んでいきたい。また、児童が自分の気持ちや行動の変化を自覚できるよう、賞賛や自信をもたせる声掛けを心がけていきたい。

さらに、「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が増加した学年もあった。少しずつ変化が見え始めていることから今年度の取組を改善しながら継続し、道徳教育の充実に努めたい。



第2学年1組 道徳科学習指導案

日時 令和6年6月19日（水）2校時  
 対象 2年1組 17名  
 指導者 教諭 山口 三喜

- 1 主題名 わたしたちのちいき 【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】  
 2 教材名 ざおんまつり （「小学 どうとく 生きる力2」 日本文教出版）  
 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

本主題は、第1学年及び第2学年における内容項目（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと」をねらいとしている。これは、第3学年及び第4学年における内容項目「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと」へ発展していく。我が国や郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する心をもつことに関する内容項目である。

2年生の段階においては、昔遊びを体験したり、地域の行事などに参加して、身の回りにある昔から伝わるものに触れたりする機会が多くなる。このことを通して、家庭や学校を取り巻く郷土に目が向けられるようになる。また、昔の遊びや季節の行事などを通して我が国の伝統や文化にも触れ、親しみをもてるようになる。

指導に当たっては、児童が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり、そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め、親しみをもつて生活できるようにすることが大切である。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、昔遊びを好み、1年生の生活科の学習時には、当時の保育園児に昔遊びを紹介し、一緒に遊ぶという交流を楽しんで行っていた。また、地域には豊かな自然や文化がある。ねぶた祭りに参加している町会もあり、ほとんどの児童が、地域の行事や祭り、催しなどに関わりながら生活している。そして、その地域や郷土の自然や行事、催しなどを好み、これからも参加していきたいと思っている児童が多い。

しかし、それは興味本位だったり、他の親しい人と参加することそのものの楽しさであつたりすることがほとんどであり、その歴史や人々の思いや願いについて知っている児童は少ない。自分が住んでいる地域や文化、生活について改めて見直し、そのよさを理解することを通して、自分の住む地域に愛着をもって関わっていかうとする思いを深めさせたい。

(3) 教材について

京都の祇園祭に参加している「ぼく」が、祭りのよさを体感し、嬉しくなる。そんな「ぼく」は、一月ぐらい前から祇園祭のかねの練習をしてきた。その練習

展	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからも続けていこう。</li> <li>教材で考えたことや気付いたことを基に、自分自身を振り返る。</li> <li>○みんなで使う物は、どうやって使ったり、片付けたりすればいいのでしょうか。それはなぜでしょう。</li> <li>○自分の物を片付けたいと自分が困る。</li> <li>○本はみんなが読むから、整頓しないとみんなが困る。</li> <li>○だから読んで人がききかなくなると整頓する。</li> <li>○人がちゃんと返す。</li> <li>○ちゃんと片付けると次の人がうれしい。</li> <li>○大事につかう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挿絵を見せながら、なぜ笑顔になつたか考えさせる。</li> <li>○めあてについて再度考えることを通して、自分の行動について振り返り、教材での学びと日常生活を繋げるようにする。</li> <li>○みんなですべての場面を想定し、使った人みんなが整理する理由について考えているか。(発言)</li> <li>○自分が使うときに整理されていないとどう感じるかを考えさせる。</li> <li>○児童から出されないうときは、進んで片付けや整頓をしていた児童の姿を紹介する。</li> <li>○6年生の姿を写真で紹介し、余韻をもつて終わらせる。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 教師の話聞く</li> <li>○全校が使うものや場所を整える6年生の様子を紹介する。</li> </ul>	

6 板書計画

みんなですつ  
づかつかつ  
のた人がかたづける  
れしい

みんなですつ  
づかつかつ  
のた人がかたづける  
れしい

（め）

みんなですつ  
づかつかつ  
のた人がかたづける  
れしい

みんなですつ  
づかつかつ  
のた人がかたづける  
れしい

みんなですつ  
づかつかつ  
のた人がかたづける  
れしい

みんなですつ  
づかつかつ  
のた人がかたづける  
れしい

をととても難しく感じた「ぼく」が、お父さんに「もう、やめたい。」と言ったこともあった。お父さんは、そんな「ぼく」に「お父さんも、よくおじいさんに叱られながら、練習したこと。みんな、そうやって、千年も続く祇園祭りを守ってきたこと」を伝え励ます。励まされた「ぼく」は、練習を頑張り、ほこの上で気持ちよくなかぬを叫びながら、「練習を続けて、本当によかった。」と思う。

本教材は、地域に長い間受け継がれてきた祭りのよさを知るとともに、そのよさを受け継いできた人々の思いに触れられる教材である。

教材を読み発問を通じて、地域にはみんなで大切にしているものがあり、自分もそれに関わることのうれしさに気付かせたい。そして、郷土の文化や生活に親しみや愛着をもって関わってほしいとすることを育てたい。

#### 4 研究仮説との関連

##### 仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場面を効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないか。

展開中段では、もし自分がかねの練習でしかられる「ぼく」だったらどうするか、紅帽子を使って自分の考えを可視化する方法を取り入れる。自分の考えを目に見える形にしてから話し合うことで、自分と同じ考えや違う考えにふれながら、主体的に話し合わせたい。そして、登場人物の気持ちに共感したり、自分の今までの経験と比べてたりしながら、自分事として考えさせたい。

展開後段では、「お父さん」の言葉を聞いた後で資料を区切り、「お父さん」の気持ちを考え、「お父さん」の話を聞いた後の「ぼく」の気持ちを紅白帽子を使ってまた可視化させることで、気持ちの変化に気付かせたい。また、かねの練習（地域の文化）と「ぼく」（自分）との関わりやこれからの関わり方についての思いなど、多様な視点から考えを深めさせたい。ここでも、登場人物の気持ちに共感したり、自分の今までの経験と比べたりしながら、自分事として考えさせたい。さらに、「A 希望と勇気、努力」と強い意志、「B 感謝」、「C 家族愛、家庭生活の充実」などの内容項目に関わって、自ら伝統や文化に関わり守っていくことについての意見や考えを多面的・多角的に考えさせたい。そして、郷土の文化や生活に親しみをもち、愛着をもって関わってほしいとすることを育てたい。

##### 仮説2

道徳科と各教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連を図り、地域素材を生かした体験活動や交流活動を行うことで、互いを認め合い思いやりや態度を育てることができるのではないか。

導入では、地域のお祭りの写真を提示し、地域の行事に目を向けさせ、これからの学習に関心をもてるようにさせる。

終末では、地域の獅子踊りを伝えるゲストティーチャーから獅子踊りの話や、どのような思いで伝統を守っているのかについて聞くことで、さらに、郷土の文化や生活に親しみをもち、愛着をもって関わってほしいとすることを育てたい。

2年生は、生活科において、町探検を行い、地域の文化に触れたり、それらに携わっている方からお話を聞くことで、郷土の文化や生活に親しみや愛着をもつ活動を行っている。展開後段では、そのこととも関連付けながら、「ぼく」とかねの練習（ぎおんまつり）と関わりを考えさせ、自分事として主体的に話し合わせたい。また、自分自身を見つめる場面では、地域の祭りに参加した経験が乏しい児童に、生活科で取り組んだ町探検などの学習を思い出させたり、お祭りに参加した経験が乏しい児童に、生活科の文化や生活に親しみをもち、愛着をもって関わってほしいとすることを育てたい。

#### 5 展開

##### (1) ねらい

お離子にかねをうまく合わせられないときの「ぼく」と、「お父さん」に励まされた後、練習を続けてお祭りに参加している「ぼく」の気持ちを考えることを通して、郷土の文化や生活に親しみや愛着をもって関わってほしいとすることを育てる。

##### (2) 展開

	学習活動	評価・留意点
発問 ◎中心発問・予想される児童の反応		<ul style="list-style-type: none"> <li>□評価・留意点</li> <li>○評価に対する支援</li> </ul>
導入	<p>1 地域にあるお祭りを出し合う。</p> <p>○地域には、どんなお祭りがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねぶた祭</li> <li>・猿賀神社十五夜大祭</li> <li>・八幡崎の獅子踊り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のお祭りの写真を提示する。</li> <li>・地域の行事に目を向けさせ、これからの学習に関心をもてるようにする。</li> </ul>
展開	<p>2 教材「ぎおんまつり」1の場面を視聴して、話し合う。</p> <p>○拍手や歓声が起こったとき、どんなことがうれしかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほこが曲がったこと。</li> <li>・気持ちが一つになったこと。</li> <li>・祭りに参加できてきていること。</li> </ul> <p>3 2の場面を視聴して、話し合う。</p> <p>○あなたが「ぼく」だったら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習をやめるといふ人は、紅白帽子の紅を、やめないといふ人は白を被る。</li> <li>・紅：難しいから、もう練習をたくない。</li> <li>白：せっかく練習を今までしてきたのだから、続けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をモニターに映し、場面ごとに区切りながら、内容を捉えさせたり、その先を想像させたりする。</li> <li>・互いの考えを可視化してから話し合うことで、主体的に考えさせたい。</li> <li>・白を選ぶ児童が多いときには、「先生が子どもだったら、練習してうまくできないから、やめてしまいませんか。先生の考えをどう思いますか。」というゆさぶりの発問を用意しておく。</li> </ul>
展開	<p>4 3の場面を視聴して、話し合う。</p> <p>○「ぼく」は、お父さんのどんな気持ちを知りましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくをばげませう。</li> <li>・しかられてもがんばってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんの気持ちを知った後の「ぼく」の気持ちを、再度紅白帽子で表すことで、気持ちの変化を可視化する。</li> </ul>

第3学年1組 道徳科学習指導案

日 時 令和6年11月21日(木) 3校時  
 対 象 3年1組 29名  
 指導者 教諭 佐井 颯

- 1 主題名 自分に正直に 【A 正直、誠実】  
 2 教材名 まどガラスと魚 (小学どうとく 生きる力3) 日本文教出版

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値  
 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「A 主として自分自身に関すること」の(2)正直・誠実)の3・4学年指導内容項目の中で、「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」を取り上げている。  
 児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするために、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けるようとする姿勢をもつことが大切である。過ちや失敗は誰にでも起こりうることであり、そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによっては、信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。  
 それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごすことが重要なことである。  
 児童の発達段階においては、興味の拡大から自己中心的な言動をし、失敗や過ちを起こすことや自己保身からうそやごまかしをしてしまうことがある。うそやごまかしを他人だけでなく自分自身も偽ることになり、不快な感情をもち続けることに気付かせることが大切である。そこで本主題において、正直であることが明らかな心で生活することに繋がりが、それらを理解させることは大変意義のあるものと考えられる。

(2) 児童の実態

本学級は、学級内で問題が起こったときや、友達とけんかをしたときは、正直に過ちを認め、素直に謝ることができている児童が多い。一方で、保身や責任逃れの言動も見られ、自分の都合のいいように解釈をして話したり、過ちを認められずに黙り込んでしまったりする児童もいる。  
 これらの実態をふまえ、相手や自分に正直だからこそ明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを実感させたい。

(3) 教材について

本教材は、窓ガラスを割ったことを隠し続ける千一郎が、近所のお姉さんの誠実な態度に接したことで、過ちを認めようと思いつき、正直に謝りに行き許してもらおうという内容である。  
 過ちを隠し続けた数日間の千一郎の行動から、うそやごまかしは自分を苦しめ、明るい気持ちで過ごせないことに気付かせたい。また、謝りに行ったときのおおしいさんとのやりとりから、正直に行動することによって心の曇りは一気に晴れ、明るく清々しい気持ちに変わることをつかませたい。  
 指導にあたっては、事前にアンケートをとり、正直さについての自身の考え方を話し合うことで、自分事として捉えられるようにする。また、心のバロメータを活用し、心情を可視化させることで、他者理解や、千一郎の心情の変化を考えさせる手立てをしたい。そして、授業の最後に導入のアンケートと同じ発問をすることで、本時を通しての考えを再構築させ正直であることの価値に気付かせ、考えを深めさせたい。

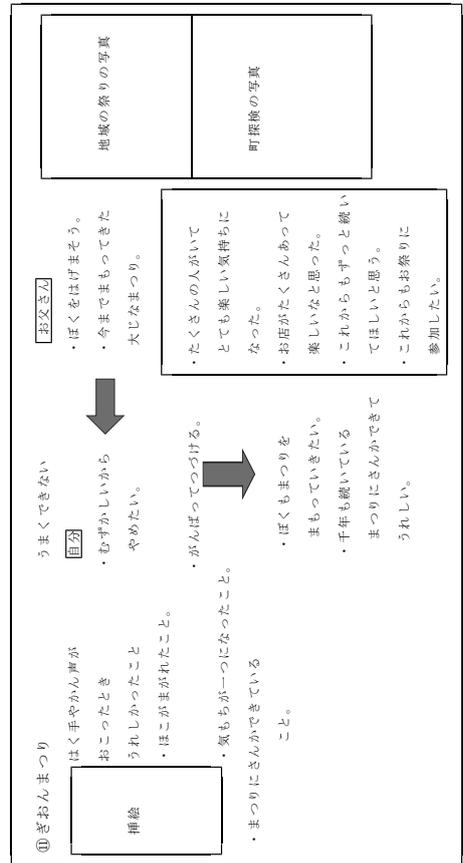
4 研究仮説との関連

仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場면을効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないかと。

<p>展 開</p>	<p>・「ぼく」の気持ちの変化を確かめながら取り組ませることで、祭りに対する人々の思いに気付けるようにする。</p> <p>・中心発問に対する考えを数名の児童に聞いてから、ノートに記入させる。</p> <p>・地域の祭りに参加した経験が乏しい児童に、生活科で取り組んだ町探検などの学習を思い出させたり、お祭りの写真を提示する。</p> <p>□郷土の文化や生活に親しみや愛着をもつて関わっていかうとしている。(ノート)</p> <p>・何を書けばよいか迷っている児童には、自分はいかにこれからどうしていかを書かせる。</p> <p>・地域の伝統や行事を進めている人に来ていただき、どのようないでそれらを大切に守ってきたのかについて話してもらおう。</p>
<p>終 末</p>	<p>7 ゲストティーチャーの方の話を聞く。</p> <p>○ゲストティーチャーの方の話を聞きましよう。</p>

6 板書計画



事前に正直さについてのアンケートを行うことで自分の生活を振り返り、自分事として考えさせることができるのではないか、また、グループワークを行ったり、全体で意見を共有したりした後に再度同じ質問をすることにより、新しい自分の見方・考え方をもち、正直・誠実について考えを深めさせることができるのではないか。

5 展開

(1) ねらい

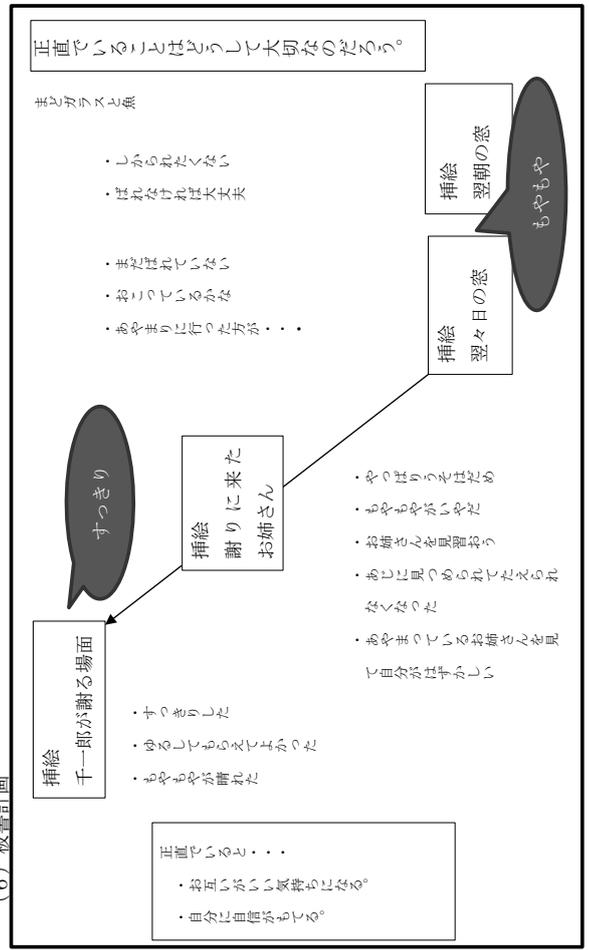
千一郎の心情を考ええる活動を通して、正直にできないときの心苦しさと、正直に言えたときの清々しい気持ちに気づき、正直に明るいうちで元気よく生活しようとする態度を育てる。

(2) 展開 (1/1時)

	学 習 活 動	評 価 ・ 留 意 点
○ 発問 ◎ 中心発問 ・ 予想される児童の反応	○ 発問 ◎ 中心発問 ・ 予想される児童の反応	□ 評価 ・ 留意点 ○ 評価に対する支援
導入	1 本時の課題を把握する。 正直でいることはどうして大切なのだろうか。 ・うそをつくと怒られるから。 ・ばれると怖いから。	○ 評価 ・ 留意点 ○ 評価に対する支援 ・ 正直さについてのアンケート結果を掲示し、本時の道徳的価値へ繋げる。
展開	2 教材「まどガラスと魚」を読んでも話し合う。 ○ まどガラスをわったとき千一郎は逃げながらどんなことを思ったのでしょうか。 ・怒られたくない。 ・ばれなければ大丈夫だ。 ○ 白い紙を見たとき千一郎はどんな思いだったのでしょうか。 ・まだ自分だとばれていない。 ・お家の人はおこっているかな。 ・正直に言った方がいいかな。	○ 評価 ・ 留意点 ○ 評価に対する支援 ・ 心のパロメーターで視覚的に表し自分事として捉えさせる。 ・ 児童の発言をゆさぶらずに正直に出来ない人間的な弱さにも共感させる。 ・ 千一郎の気持ちを考え道徳ノートに書かせる。 ・ グループワークを行い、友達と考えに触れさせる。 ・ 心のパロメーターで視覚的に正直になる前と後との心情の変化を捉えさせる。
	◎ 正直になれなかった千一郎はどうして正直になれたのだろうか。 ・ やっぱうそはだめだと思ったから。 ・ ずっともやもやしているのがいやだから。 ・ お姉さんを見習おうと思ったから。 ・ お姉さんからもったアジに見つめられているような気がして耐えられなくなったから。 ・ お姉さんが謝っているのを見てうそをついている自分が恥ずかしくなったから。	○ 評価 ・ 留意点 ○ 評価に対する支援 ・ 「許してもらえなかったのではない方が良かったのではないかと

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すっきりした。</li> <li>・ 許してもらえてよかった。</li> <li>・ 気持ちいい。</li> </ul> <p>○ 正直でいることはどうして大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分も相手もお互いがいい気持ちになるから。</li> <li>・ 自分に自信がもてるから。</li> </ul>	<p>だろつかい」という補助発問により、正直に謝ることの価値に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おじいさんも気持ちが晴れたことをおさえる。</li> <li>・ 再度同じ質問をし、自分の考えを再構築させる。</li> <li>・ 事前アンケートからの変容を見取る。</li> </ul> <p>□ 正直でいることの大切さに気づき、正直に明るいうちで元気によく生活しようとする気持ちを高めているか。(道徳ノート・発言)</p> <p>○ 正直に行動する前後の後ろめたさや人の心の明るさを想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師自身の経験を話し余韻をもって終わらせる。</li> </ul>
<p>○ 正直でいることはどうして大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分も相手もお互いがいい気持ちになるから。</li> <li>・ 自分に自信がもてるから。</li> </ul>	<p>○ 本時の振り返りと正直になって良かった自身の経験を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正直にすると相手も気持ちがいい。</li> <li>・ 正直になって自信をもって生きていきたい。</li> <li>・ 落書きをしたときに正直に認めてすっきりした。</li> <li>・ 落としたゴミを正直に自分の物だと認め、ゴミ箱に捨てて教室のみんなも気分が良くなった。</li> </ul> <p>4 過ちや失敗を認め正直に行動することについての教師の話の話を聞く。</p>
終末	

(6) 板書計画



## 第4学年1組 道徳科学習指導案

日時 令和6年7月2日(火) 2校時  
対象 4年1組 22名  
指導者 T1 教諭 島内 柚子  
T2 講師 成田 郁野

1 主題名 しんらいし合える友達 【B 友情、信頼】

2 教材名 しんらいの手の手 (「小学道徳 生きる力4」 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値  
 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「B 主として人ととの関わりに関すること」の(9 信頼・友情)の3・4学年指導内容項目の中で、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」を取り上げている。  
 子どもたちにとって友達は不可欠な存在であり、子どもたちは友達との交流を通して様々な体験をし、成長していく。家族や先生に言えないことでも、友達になら相談できることもある。心からわかり合い、信頼できる友達をもちたい、また、自分もそのような存在になりたいという願いが誰しもあると考える。  
 児童の発達段階として、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しむとする傾向がある。子どもたちの口から親友という言葉が出てくることも多くなる。しかし、その友情はまだ表面的で、深い友情とまで言えないことが多い。そこで、友情の質を高めていくために、互いに信じあっている姿に感動させ、深い友情に対する憧れをもたせ、自分たちもそのような友情で結ばれるような友達になろうとする心情をもたせることが大切である。

(2) 児童の実態

本学級の子どもたちは男女の仲もよく、休み時間にはみんなで声をかけ合って体育館でドッジボールをしたり、教室でカードゲームをしたりする姿が多く見られる。遊びの中で起こった問題なども子ども同士で話し合い、自分たちでルールを考えようという考えが目指そうとする場面もある。しかし、よく発言する友達言うことに、心の中では賛成できなくとも、友達に同調する行動をとるといった場面も見られる。4学年になり仲間意識が高まって集団活動が活発になっていく一方で、自分の利害にもこだわること、友達とトラブルを引き起こすことも少なくはない。

そのため、自分の利害を優先するうわべだけの友達ではなく、助け合い、信頼できる真の友達関係を築いていきたいという思いを深めさせたい。

(3) 教材について

本教材は、今から五百年ほど前に実在した、画家を目指した二人の若者の友情物語である。二人は貧しく、働かねばならなかったが、忙しすぎで画家の勉強ができていない。そんな中、ハンズは一人が働いて、一人が絵の勉強をするという提案をする。先にデューラーを行かせたハンズは、働かながら仕送りを続けた。数年後勉強を終え帰ってきたデューラーの手を見ても涙を流す。ハンズの手はよく絵を描きになれるほど変わっていた。夢を諦めながら友達を信頼し支え続けたハンズと、画家としてその手を描くことでハンズの友情に込めようとしたデューラーの崇高な友情に触れることを通して、友情の美しさを感じ、友達と互いに信頼し助け合おうとする素晴らしさについて考えさせていく。

1時間扱いの教材であるが、2時間扱いとして取り扱い、第1時では問題意識を高めさせるため、学級でアンケートをとり、自分の友達についての考え方や、今までの関わり方について考え話し合うこと、自分ごととして捉えることができるようにする。  
 それを踏まえ本時では、心のパロメーターを活用し心情を可視化させることで、対話の糸口や心情変化を知る手がかりとし、全体の共有時の充実やペアまたはグループワークでの話合いの内容を深めさせていきたい。

デューラーとハンズの友情のあり方について考え、自分自身のことを振り返ること、日頃友達から向けられている温かい友情に気づき、友達のかけがえのなさをより一層感じ、友達と互いに信頼し助け合おうとする心情を育てていきたい。

## 4 研究仮説との関連

### 仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場面に効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないかと。

指導にあたって事前に、自分の友達に対する見方・考え方についてアンケートを行うことで、友情について振り返らせ、自分事として考えさせることに繋がるのではないかと。

また、対話的な学びをしていくために、全体で話し合うだけでなく、ペア・グループワークを取り入れることで、友達の意見・考え方をしっかりと聞き、新しく発展させた自分の見方・考え方をもち、理解を深めることができるのではないかと。

中心発問においては、自己内対話をしながら、自分の考えを道徳ノートに書かせる。その後、全体で話し合い、自分や友達の意見に共感したり比べたりできるように板書に整理する。デューラーとハンズ双方の気持ちを考えて、デューラーを思いお金を送り続けたハンズの無償の友情とそれに応えようとする、デューラーの思いを多面的・多角的に捉えさせることができるのではないかと。

また、補助発問を行い、より深い児童の発言を引き出すことで、互いに理解し、信頼し高め合っているような交友関係を築いていこうとする心情を育てたい。

## 5 展開

(1) ねらい

信頼し合い、つらいときは力を合わせて助け合い、それに応えようとした二人の友情の美しさを  
 感じ、友達とお互いに信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

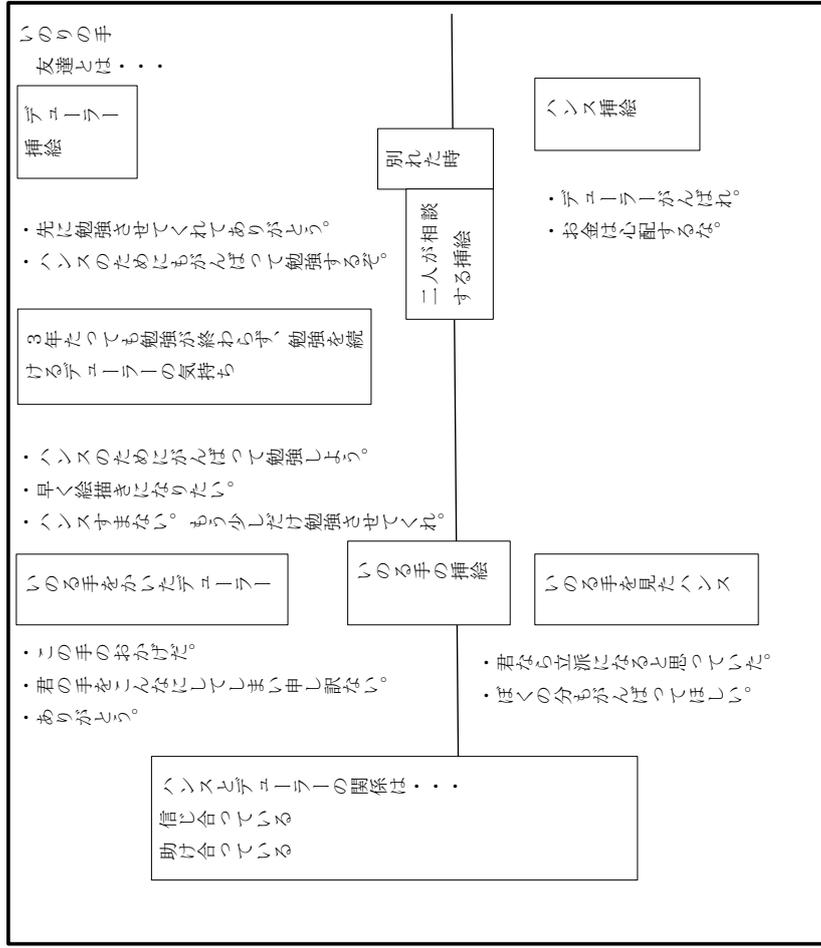
(2) 展開 (2/2時)

	学 習 活 動	□評価 ・留意点
導 入	○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応 1 今日の学習のテーマを把握する。 ○親友とは、どんな友達でしょうか。 ・相談ののってくれる。 ・本音で話し合うことができる。 ・困っている時に助けてくれる。 2 教材「いのりの手」を読んで話し合う。 ○親友(友達)が困っていたら何でもできますか。 ・できる。 ・内容によって是可以する。	○評価に対する支援 ・前時の学習で出ていた友達についてのアンケート結果を掲示し本時の道徳的価値へ繋げる。 ・心のパロメーターで視覚的に表し、自分事として捉えさせる。
	○二人はどのような気持ちで別れたのでしょうか。 [デューラー] ・先に勉強させてくれてありがとう。 ・ハンズのためにもがんばって勉強するぞ。	・「祈りの手」を掲示する。 ・約束を交わし別れる時のハンズとデューラーの気持ちを話し合うこととお互いを信頼している二人の関係を捉えさせる。

<p>展開</p> <p>[ハンス]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デューラーががんばれ。</li> <li>・お金は心配するな。</li> <li>・がんばって働くからね。</li> </ul> <p>○3年たって勉強が終わらず、勉強を続けているデューラーはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンスのためにもがんばって勉強しよう。</li> <li>・早く絵描きになりたい。</li> <li>・ハンスすまない。もう少しだけ勉強させてくれ。</li> </ul> <p>◎「いのる手」を見たハンスはどんなことを思いましたか。また、「いのる手」にこめたデューラーの思いはどんなことでしょうか。</p> <p>[デューラー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・君なら立派な絵描きになると思っていた。</li> <li>・僕の方もがんばって。</li> </ul> <p>○このままだと絵がかげなくなってしまうと分かっているからお金を送り続けたのはなぜだろう。(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばっていると思われていたから。</li> <li>・立派になって帰ってきてくれると信頼していたから。</li> </ul> <p>[デューラー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この手のおかげだ。</li> <li>・君の手をこんなににしてしまい申し訳ない。</li> <li>・ありがとう。</li> </ul> <p>○デューラーは何に感謝しているのかな。(お金を送ってくれたことだろうか) (補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信じてくれたこと。</li> </ul> <p>○ハンスとデューラーはどんな関係ですか。二人の友情についてどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信じ合っている。</li> <li>・助け合えている。</li> </ul> <p>3 自分自身について振り返る</p> <p>○友達とはどんな存在であり、大切にすることはいかなることでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているときに助け合うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢に向かって努力する中でもハンスのことを忘れず努力する姿に気がかせる。</li> <li>・児童の発言をゆさぶり、もつと勉強したいと思ってしまう人間の弱さにも共感させる。</li> <li>・ハンスとデューラーの双方の気持ちを考え道徳ノートに書かせる。</li> <li>・ペアトークを行い、友達のことを触れる。</li> <li>・補助発問を行い児童の考えをさらに引き出し全体で共有する。</li> <li>・絵がかげなくなってしまうくらい働いたハンスのデューラーに対する信頼と、それに応えようとしたデューラーの気持ちを再度抑える。</li> <li>・ハンスとデューラーの姿からこれから友達を信頼し助け合おうとする気持ちを高めさせる。</li> </ul> <p>○友達との関係を考え、これからよりよい関係を築いていくうえでする気持ちを高めている</p>
--	---

<p>終末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信じてあげること。</li> <li>・お互いにお互いのことを思いやること。</li> </ul> <p>4 教師の話を聞く。</p> <p>○友達からさらわれてうれしかったこと、友達がいかにがんばっていたことがあり、その時の気持ちを大切にしていることを話よりより友達関係に繋げることができるといことを話します。</p>	<p>か。(道徳ノート)</p> <p>○アンケート結果やハンスとデューラーの関係、自分ならどうしてほしいか等を基に考えるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身の経験を話し余韻をもって終わらせる。</li> </ul>
--	--

6 板書計画



## 第5学年1組 道徳科学習指導演案

日 時 令和6年10月30日 (水) 2校時  
 対 象 5年1組 19名  
 指導者 教諭 小田桐 侑子

- 1 主題名 広い心 【B 相互理解、寛容】
- 2 教材名 折れたタワロー (「小学道徳 生きる力5」日本文教出版)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値

この主題の含む価値は、内容項目「相互理解、寛容」である。「自分の考えや意見を大切にすることともに、謙虚な心もち、広い心で異なる意見や立場を尊重する」ことである。5年生の段階においては、自分のもの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、感覚が近いもの同士が接近し、そうでないものを遠ざけようとする行動が見られることがある。自分の考えをしつかりもてようようになるようになってきたこの時期だからこそ、謙虚な心で自分とは違った考えにも耳を傾け、相互理解に努めていけるようにしたい。

本時の学習を通して、結果のみに目を向けず、そのような行為をとるに至った動機に目を向け、故意によるものでなければ許そうとする広い心が大切であることを理解させたい。また、人間には、誰しも失敗をしようとすることがあるということを自覚し、相手の立場を考え、寛容な心で接していこうという心情を育てていくことが大切であると考える。そして、その謙虚さと寛容さによって、広い心でよりよい人間関係を構築できると考える。

#### (2) 児童の実態

5年生になり、グループ活動では、男女関係なく話し合いをしたり、協力して活動に取り組んだりする様子が見られるようになってきた。また、アンケートの「人を許す」という設問に対しては、相手の気持ちに寄り添う回答が多く、許すことは良いことであることと多くの児童が認識している。しかし、自分の失敗や過ちに対して自覚がなく、友達の間でや間違いを強く指摘してしまう児童もいる。また、相手のことを考えず、自分本位に行動してしまい、互いに気持ちよく過ごせないことがある。

そこで、本時では、相手の失敗を許すことについて、自分との関わりで捉え、「自分のことを振り返る」「相手の立場に立つ」など、多面的・多角的に考えを深められるように工夫することにより、誰にでも失敗があることを理解した上で相手の立場や気持ちを考えた言動が相手とのよりよい関係につながっていくことについて考えを深めていきたい。

#### (3) 教材について

本教材の主人公のひろしは、給食当番でマスクを忘れ、そのことでのりおに強く責められる。数日後、そののりおに一生懸命に作った作品を壊されてしまい、悔しかったが、故意ではない失敗を許す話である。ひろしにとっては、自分が失敗したときに強い口調で許そうとしなかったのりおに、大事な作品を故意でないにせよ壊されてしまったことは、なかなか許せるものではない。しかし、数日前とは違って変わってうむいっているのりおを見ているうちに「誰にでも失敗はある」ということに気付いていくという内容である。

本時では、自分を含め、誰にでも失敗があることを理解し、相手の失敗を許すことができ

きたときの思いを捉えることで、相手の立場に立って広い心で許そうとする心情を育てたい。そのために、登場人物の行動を自分事として捉え、謝ること、許すことがよいことであるという価値理解だけでなく、登場人物の気持ちに寄り添い、辛い経験から相手を許すことができたと寛容な部分に気付かせたい。

### 4 研究仮説との関連

#### 仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場面を効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないか。

#### ①発問の工夫

自分がひろしの立場だったら許せるか、許せないかの理由を問うことで、教材の中だけの話にさせないようにしたい。そのために、ひろしの葛藤を心情メモーターで示し、思いを視覚的に表すことで、許すことの難しさや良さに気付くようにする。

#### ②交流場面の工夫

自分事として捉えられるように、「自分だったらどうするか」を考えさせたい。その考えたことについてペアで交流し、自分の意見を伝えることで自分の考えを明確にするとともに、その後の全体交流の場へ生かしたい。

#### 仮説2

道徳科と各教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連を図り、地域素材を生かした体験活動や交流活動を行うことで互いを高め合い思いやりや態度を育てることができるとはのではないか。

本時の終末において、グループ活動を行ってきたりうれしかったことや広い心でできたことについてアンケートをもとに紹介し、そのときの気持ちを思い出しやすくする。そのことが実生活に生かそうとする道徳的実践意欲や態度を高めることができると考える。

### 5 展開

#### (1) ねらい

主人公の心の揺れや変化や捉えを伝える活動を通して、誰にでも失敗はあり、一方的に責めるのではなく、許し合うことが、よりよい人間関係を築くことにつながることを理解し、広い心で生活しようとする心情を育てる。

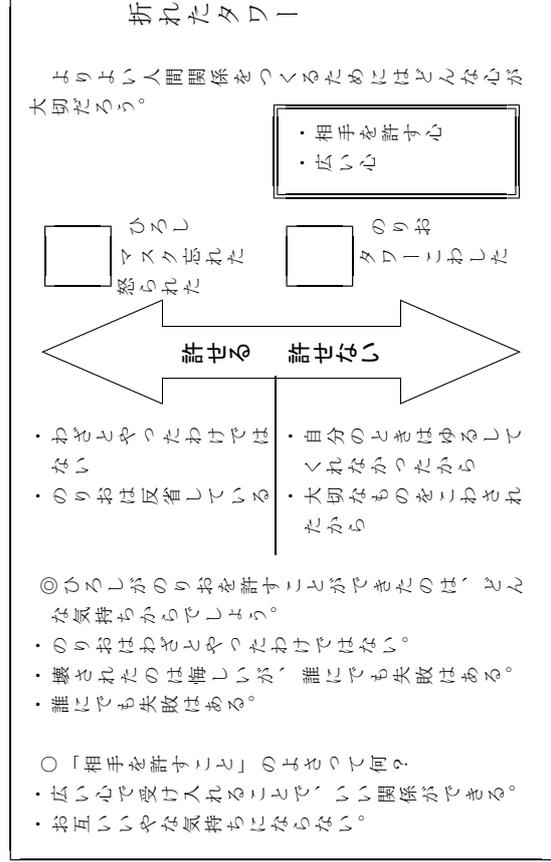
#### (2) 展開 (1/1時)

	学 習 活 動	□評価 ・留意点 ○評価に対する支援
導	○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応 1 相手の失敗を許せたときと許せなかった時を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ○アンケートの結果より、友達の間違いや失敗を許した経験について話し合う。 ・係の仕事を忘れたとき ・部活で失敗をしたとき 2 本時の学習内容を知る。 めあて	・アンケート結果をもとに本時の学習のねらいとする価値について、児童一人一人に課題意識をもたせる。
入	よりよい人間関係をつくるために、どんな心が大切だろう。	

展	<p>3 教材「折れたタワー」を読み、話し合う。</p> <p>○あなたがひろしの立場だったらのりおのことを許すことはできますか。理由も考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わざとやっただけではない。</li> <li>・のりおは反省している。</li> </ul> <p>許せない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のときは許してくれなかったから。</li> <li>・大切にしていたものを壊されたから。</li> </ul> <p>○ペアで話し合います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だったら許せないと。自分のときは許してくれなかったから。</li> <li>・許してあげようと思う。わざとじゃなかったと思うから。</li> </ul> <p>○自分は許しますか、許しませんか、考えを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情メモーターを活用し、問題をより自分の事として、捉えられるようにする。</li> <li>・マスクを忘れたことを責められた時の心情を想起させる。</li> <li>・ペアで「許す」「許さない」について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「許す」「許せない」気持ちを分類しながら板書をする。</li> <li>・ひろしにとってもどんな思っているのかをしっかりと押さえる。</li> <li>・のりおがタワーを倒した場面を教師が実際に言うことで、その場面の状況を想起しやすいようにする。</li> <li>・補助発問で「かわいそうだから」と投げかけ、失敗は誰にでもあろうという気持ちで考えさせる。</li> </ul> <p>□誰にでも失敗があることを理解したうえで、相手の過ちを許そうとするひろしの思いを捉えることで、よりよい人間関係を築くことができているか。</p> <p>(道徳ノート・発言)</p> <p>○「かわいそう。」という理由だけで許すことのできるのか、という観点で考えさせる。</p>
開	<p>○うつぶむいたままのりおを見て、ひろしはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのときは許してくれなかったのに。</li> <li>・のりおはわざとやっていたわけではないし…。</li> <li>・やっぱ許せない。</li> </ul> <p>◎のりおを許すことができたのは、どんな気持ちからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のりおはわざとやっただけではない。</li> <li>・壊されたのは悔しいが、誰にでも失敗はある。</li> <li>・自分がマスクを忘れたときと同じだ。</li> <li>・自分も許してほしかった。</li> <li>・誰にでも失敗はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「許す」「許せない」気持ちを分類しながら板書をする。</li> <li>・ひろしにとってもどんな思っているのかをしっかりと押さえる。</li> <li>・のりおがタワーを倒した場面を教師が実際に言うことで、その場面の状況を想起しやすいようにする。</li> <li>・補助発問で「かわいそうだから」と投げかけ、失敗は誰にでもあろうという気持ちで考えさせる。</li> </ul> <p>□誰にでも失敗があることを理解したうえで、相手の過ちを許そうとするひろしの思いを捉えることで、よりよい人間関係を築くことができているか。</p> <p>(道徳ノート・発言)</p> <p>○「かわいそう。」という理由だけで許すことのできるのか、という観点で考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「許す」「許せない」気持ちを分類しながら板書をする。</li> <li>・ひろしにとってもどんな思っているのかをしっかりと押さえる。</li> <li>・のりおがタワーを倒した場面を教師が実際に言うことで、その場面の状況を想起しやすいようにする。</li> <li>・補助発問で「かわいそうだから」と投げかけ、失敗は誰にでもあろうという気持ちで考えさせる。</li> </ul> <p>□誰にでも失敗があることを理解したうえで、相手の過ちを許そうとするひろしの思いを捉えることで、よりよい人間関係を築くことができているか。</p> <p>(道徳ノート・発言)</p> <p>○「かわいそう。」という理由だけで許すことのできるのか、という観点で考えさせる。</p>

	<p>○このあと二人はどんな関係になったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良くなったと思う。</li> <li>・もっと仲良くなった。</li> </ul> <p>○「相手を許す」ことのよさを見つめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許すには、広い心で受け入れること。</li> <li>・相手の立場を考えることで、自分にも同じことがあるかもしれないと思うことで、許す。</li> <li>・いい関係がでる。</li> <li>・お互い、いやな気持ちにならない。</li> <li>・すつきりする。</li> </ul>	<p>終末</p> <p>4 教材で考えたことや気付いたことを基に、自分自身を振り返る。</p> <p>○グループ活動を行ってきたこととや広い心でできたことについて紹介しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果から、これからの生活を考えさせ、お互いに許し合うことでよりよい人間関係に繋がっていくことに気付かせたい。</li> </ul>	<p>◎このあと二人はどんな関係になったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良くなったと思う。</li> <li>・もっと仲良くなった。</li> </ul> <p>○「相手を許す」ことのよさを見つめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許すには、広い心で受け入れること。</li> <li>・相手の立場を考えることで、自分にも同じことがあるかもしれないと思うことで、許す。</li> <li>・いい関係がでる。</li> <li>・お互い、いやな気持ちにならない。</li> <li>・すつきりする。</li> </ul>
--	---	--	---

6 板書計画



## 第6学年1組 道徳科学習指導案

令和6年10月9日(水) 2校時  
 対象 6年1組 25名  
 指導者 教諭 佐藤 伸子

- 1 主題名 誠実に生きる 【A 正直、誠実】
- 2 教材名 手品師 (「小学道徳 生きる力6」 日本文教出版)

- 3 主題設定の理由
  - (1) ねらいとする道徳的価値
 

誠実な生活を送ることは、人と信頼関係を築くうえでも、自らの誇りや自信を保つうえでも重要なことである。しかし、人はときに、私利私欲を優先し、自分の良い行動をしてしまうことがある。他者からの信頼を失い、自責の念や良心の呵責が心の中に生じてしまう。明るく伸び伸びとした気持ちで生活するには、そうした弱さを乗り越え、自分の良心に従って行動することが大切である。自分自身に誠実であることについて理解を深められるように指導したい。
  - (2) 児童の実態
 

お互いに失礼のないように気を付けて、穏やかに接することができる。やるべきことをきちんとやろうとする児童が多い。しかし、ときにはこうした方が正しいとわかっているにもかかわらず、損得や行動の基準にしてしまったり、やりたいことを優先してしまったりすることがある。本時では、そうした不安定さや誠実であることの難しさについて、自分と関わらせながら考えさせたい。また、女子は、何事にも誠実に取り組むが、学期ごとに行っていた学校生活アンケートの自己評価が低い傾向にある。理由としては、誠実に行動することはあたりまえだと感じていることが考えられる。そのことから自分の長所としてとらえられなかったり、誠実に行動できる誇りや価値を認識していないなど、具体的な自分自身の行動と結び付けながら、自分自身に誠実に行動することも喜びをもたせたい。自信になることについて気付かせ、自分の良心に従って行動することの良さを実感させたい。

- (3) 教材について
 

主人公である「腕がいいがあまり売れない手品師」は、大劇場のステージに立てる日が来るのを願って腕を磨いていた。ある日、手品師は道端にしよんぼりとしやがみこんでいる少年に出会う。その子が父親を失い、働きに出ている母親も何日も帰って来ないという境遇で、寂しい思いをしていることを知った手品師は、自分の手品で男の子を元気づける。そして、明日も必ず会いに来ると男の子と約束を交わす。ところが、その日の夜、手品師が大劇場のステージへの誘いが難い込む。迷いに迷った手品師は、葛藤の末にその誘いを断り、男の子との約束を守る決心をする。そして、翌日も男の子のために素晴らしい手品を演じるという内容である。

児童には、大劇場のステージに立つ自分の夢と自分を心から待っている男の子との約束の間で揺れる手品師の思いに共感させながら、葛藤する手品師の気持ちについて十分に考えさせたい。そうすることで、自分の損得で行動してしまっている弱さと、そこを乗り越えて誠実に行動できたときの晴れ晴れとした気持ちに気付かせたい。そして、相手に対して自分自身に誠実に行動することの良さについて考えを深めたい。

### 4 研究仮説との関連

仮説1  
 道徳科において、発問を吟味し、交流場面を効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないかと。

- ① 発問の工夫
  - ・損得で考えてしまう利己的な気持ちと、相手に対しても自分に対しても誠実でありたいという二つの気持ちの間で葛藤する手品師の心の中を十分考えさせたい。そのことから誠実であることの難しさに気付かせ、男の子との約束を守る決断に至った手品師の気持ちを深く考えさせる必要感にたどり着かせたい。そして、自分自身に誠実に行動できなかったときの良心の痛みや自分自身に誠実に行動できなかったときの晴れ晴れとした明るい気持ちなどについて気付かせたい。

- ② 話し合いの工夫
  - ・悩んでいるときの手品師の心を一人一人大劇場の「心の数直線」(「夢やこれからの生活のために輝く手品師の心を赤・「男の子の約束を守りたい」を青)で示し、ペアで考えを伝え合うことで、自分の考えを明確にするとともに、手品師の葛藤する心について深く考えさせる。
  - ・発問がモニターでそれぞれの「心の数直線」の状態を把握し、意見が似ている児童を意図的に指名しながら、手品師の葛藤する気持ちについて全体で話し合いを進めていく。

仮説2  
 道徳と各教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連を図り、地域素材を生かした体験活動や交流活動を行うことで、互いを高め合い、思いやりの心や態度を育てることができるのではないかと。

### ① 国語科との関連

- ・国語の学習で「誠」の漢字の学習をする際、「誠実」という言葉について意味調べをする。そして、「私利私欲をまげえず、真心をもって人や物事に対すること」「良心に従って行動すること」などの意味について、具体的な行動と結び付けて理解させるようにする。

### ② 「いいなの星空」の活動との関連

- ・自分を振り返り、誠実に行動できた経験やその時の気持ちについて語る場面では、毎週お互いの頑張りや善い行いについて認め合っている「いいなの星空」のカードから、誠意ある行動について書いてあるものを選んで紹介する。誠実な行動である友達に認められているという安心感をもたせることで、そのときの気持ちを思い出しやすくする。

### 5. 展開

- (1) ねらい
 

迷った末に誠実に行動した手品師の思いを通して、誠実な行動は、私利私欲を優先しようとする気持ちや、自分を乗り越えたい先にあることや、自分自身に誠実に行動することに喜びを得られることに気付かせ、明るい気持ちで生活しようとする心性を育てる。
- (2) 展開

	学習活動・主な発問と予想される児童の反応	○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	□評価・留意点 ○評価に対する支援
導入	1 「誠実」について考える。 ○人の誠実さはどんなときに感じますか。 ・約束を守ってくれたとき ・そうじを適当にやらないで一生懸命やっていたのを見たとき ・毎日きちんと提出物を出したり委員会の仕事をやり取りしている人 ○本時の課題を確認する。 誠実に行動する良さは何だろう。	□評価・留意点 ○評価に対する支援 ・児童の発言を受け止め、「誠実」の意味について確認する。 「損得にとらわれず、真心をもって行動する様子」 「言葉にうそやごまかしがなく、良心に従って行動する様子」	
展開	2 「手品師」を読んで話し合う。 ○男の子に手品を披露してあげているとき、手品師はどんなことを思っていたのでしょうか。 ・小さいのにどんなに悲しくって不安だろう。 ・父親が亡くなり、母親も仕事から帰って来ないとは、かわいそうに。なんとか元気づけてあげたい。 ・笑ってくれた。よかった。うれしい。明日も一緒にいてあげよう。 ○迷いに迷っている手品師の気持ちを考えよう。 【大劇場へ行く】 ・夢がかなえるチャンスだ。絶対に行きたい。 ・有名になれるぞ。これで生活も楽になる。 ・男の子には今度会ったときに謝りたい。 【男の子との約束を守る】 ・男の子との約束を守るべきだ。 ・ぼくが行かなければ、どんなにか気がなるだろう。 ・大舞台上に立てても男の子のことが気になるだろう。 ◎手品師が男の子との約束を守った理由は何だろう。 ・かわいそうに男の子をこれ以上傷つけたくない。 ・男の子を悲しませることがわかっていては、自分に自分を優先するのは恥ずかしいと感じる。	・教師の範読 ・手品師と男の子の心となり、状況について確認する。 ・男の子のかわいそうな状況と不安と悲しみについて確認する。 ・悩んでいるときの手品師の心を一人一人大劇場の「心の数直線」で示す。「男の子との約束を守りたい」を青)を青)を青) ・ペアで手品師の心の中を話し合う。 ・全体で交流の時は、児童の心の数直線を教師が把握し、意図的に指名に生かす。 ・約束を守るべきだ。」という意見が大多数になった場合は、「自分の夢や生活を大切に思うんじゃない?」という補助発問を用いて、互いの気持ちを理解させる。 ・道徳ノートに書かせる。 □誠実に行動することで喜びを感じたり、誠実に行動できないことで胸が痛むこ	

サポートルーム1 道徳科学習指導案

日 時 令和6年8月28日(水) 2校時  
 対 象 サポートルーム1 1年 1名  
 指導者 教諭 村元 周子

1 主題名 うそばかりついていると 【A 正直、誠実】

2 教材名 ひつじがいのこども (「しょうがく どうとく いきるちから1」 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

小学校教育指導要領解説特別の教科道徳編では「A 主として自身に関すること」の(2)正直・誠実)の1・2年生指導内容項目の中で、「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること」を取り上げている。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たれたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことよって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。

児童の発達段階として、自分自身の言動を他者から叱られたり笑われたりすることから逃れようとする気持ちが働くことが少なくない。そのために、うそを言ったりごまかしたりして暗い心になることが見受けられる。いけないことをしてしまっただけには素直にその非を認め、あやまるべきことができるとともに正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を養うようにすることが求められる。

うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする心情を養うために、うそをついたりごまかしたりすることはいけないことだという心情を高めさせたい。

(2) 児童の実態

明るく活発でユーモアがあり、友達を笑わせたり、自分から進んで友達と関わろうとしたりする姿が多く見られる。しかし、やってよいことと悪いことの区別については、「言われたからやろ。」「先生に知られるからやらない。」という他律的な面が強く、きまりの意義や行動の結果について自分でよく考えて行動することはできていない。

また、これまでの生活の中でうそをついてはいけないことに気付いてはいるが、自分に関わる問題になると、人から良く思われたいと願ったり、自分に責任を向けてほしいと思ったりするあまりに、事実とは違うことをいったり、うそをついて自分の責任を回避したりすることがある。

本時では、うそをつくことで自分の気持ちもよもやもやすることやうそを繰り返すことで相手の信用を失うことに気付かせ、うそをつかないで正直にしようとする心情を高めさせたい。

(3) 教材について

本教材は、インソップの有名な寓話であり、3つの場面で構成されている。

1. 子どもの羊飼いがひとりぼっちで退屈していた。ある日、「たいへん。たいへん。おおかみだ。」と大きな声で騒ぎ立てるいたずらを繰り返した。

2. 羊飼いが大きな声で大人に呼びかけてみると、大人たちはおおかみを退治しようと集まってきた。羊飼いはおもしろがって、大人に何回注意されても、同じいたずらを繰り返した。

3. ある日、本当におおかみがやってきたが、大人たちは誰ひとり羊飼いを救いに出でこなかった。3つの場面を通して、羊飼いの気持ちと大人たちの気持ちとを対比して深く考えることができる資料である。特に2の場面では、羊飼いの言うことを信じられなくなっていく大人たちの気持ちの變化に重点を置き、誠実に生きることの大切さを十分に考えさせることで、主題にせまることが可能になると考える。

本時では、大人たちの何度までもされ続けた時の気持ちの変化を心情パロメーターを用いて表現させることで、うそをつく信用されなくなるということを視覚的に捉えさせるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男の子を傷つけて、大きな舞台上に立てても、心から喜ばない。良心が痛む。</li> <li>3 誠実に行動することについて考える。</li> <li>○自分たちも誠実に行動したことはありますか。そのときどんな気持ちになりましたか。</li> <li>・ 委員会</li> <li>・ 係活動</li> <li>・ 行事でのがんばり</li> <li>○ 誠実に行動する良さとは何だと思えますか。</li> <li>・ 相手を傷つけない。</li> <li>・ 周りの人から信頼される。</li> <li>・ 自分の良心を大切にすることで、明るい気持ちになる。</li> <li>・ 良心が痛まない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ を感じ取ったか。(発言・ノート)</li> <li>○ 劇場に行ったとき、どういう気持ちになったか、という視点で考えさせる。</li> <li>・ 自分の生活の中で、誠実に行動できた経験やその時の気持ちを想起させる。その時のうれやかな気持ちに気付かせる。</li> <li>・ 「いいな、星空」のカードを紹介する。</li> </ul>
<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師自身の誠実に関する体験談を話す。</li> </ul>

5 板書計画

<p>立男もつ男つか てこのののけい も、いの子をた 心、傷ずるをう か、つづいての と、けし、く、な と、けし、く、な ない、大感、こ い、き、じ、と、こ が、無、か、先、わ む、む、に、す、か</p>	<p>大劇場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男無名に、いには、今度、会、え、た、とき、に、謝</li> <li>・ 行、き、か、な、い、え、る、チ、ャ、ン、ス、だ、絶、対、に</li> <li>・ 夢、を、か、な、い、え、る、チ、ャ、ン、ス、だ、絶、対、に</li> </ul>	<p>男の子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大、舞、台、に、立、て、た、ら、う、れ、し、く、は、い、い、</li> <li>・ 男、子、の、顔、が、浮</li> <li>・ 大、舞、台、に、立、て、た、ら、う、れ、し、く、は、い、い、</li> <li>・ 男、子、の、顔、が、浮</li> <li>・ 大、舞、台、に、立、て、た、ら、う、れ、し、く、は、い、い、</li> <li>・ 男、子、の、顔、が、浮</li> </ul>	<p>手品師</p> <p>手品師</p> <p>-----</p> <p>男の子</p>	<p>誠実に行動することの良さは</p> <p>相手を傷つけない。 自分の良心を大切にすること、気持ちになる。</p>
--	---	--	---	---

4 研究仮説との関連

仮説 1

道徳科において、発問を吟味し、交流場面を効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないかと。

指導にあたっては、教材の自身に対する理解を深めさせるために、紙芝居形式で読み聞かせをする。大人たちとひつじかいの子どもの両方の気持ちを考えさせる発問をし、役割演技を取り入れることで、自分事として捉えたり、多角的に捉えたりすることができるとはならないか、また、大人たちの気持ちを考えさせる際は、「信じる気持ち」と「信じない」気持ちを心情メーターを用いて表し、うそを繰り返すことと信用を失っていくことを視覚的に捉えさせることで、うそやごまかしをしないことの大切さについての理解を深めることができるのではないかと。

中心発問においては、心情メーターを振り返りながらうそをつく側の立場について考えさせることで、正直であることの大切さに気付かせ、うそやごまかしをしないで正直でいようとする実践意欲を育てたい。

5 展開

- (1) ねらい
  - うそばかりついている人の言うことは、信じようと思わなくなると認識することで、うそをつかないで正直にしようとする態度を育てる。
- (2) 展開 (1/1時)

	学習活動	評価・留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応</li> <li>○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応</li> <li>○うそをついたことはありますか。それは、どんな時ですか。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・叱られるかもしれないと思った時。</li> <li>・悪いことをしてはれたくない時。</li> <li>・物をこわしてしまったりした時。</li> <li>・友達をびくくりにさせようと思った時。</li> </ul> </li> <li>○今日は、うそばかりついているとどうなるのかについて考えます。うそばかりついているとどうなると思いますか。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「またかあ。」と思われる。</li> <li>・信じてもらえなくなる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□評価 ・留意点</li> <li>○評価に対する支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・うそをついた時の場面や気持ち、理由を経験から紹介させながら、本時のねらいの方向づけをする。(発表するのが難しい場合は、具体的な場面の例を提示したり、教師の経験を話したりする。)</li> </ul> </li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 教材「ひつじかいの子ども」を読み、正直について自分の考えや大切にしたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の内容を十分に理解できるように、紙芝居形式で読み聞かせをする。その際、場面ごとに区切りながら気持ちを考えさせるようにする。</li> </ul>

<p>○はじめに羊飼いの子どもが「おおかみだ。」と言った時、大人たちはどんな気持ちで助けに行ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だ。</li> <li>・早く助けに行かなくちゃ。</li> </ul> <p>○大人をだました時、羊飼いの子どもはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているのを見るのは楽しいな。</li> <li>・うまくだますことができました。またやろう。</li> <li>・ふざけるのは楽しいな。</li> </ul> <p>○うそをつかれた大人たちはどんな気持ちになったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うそだったのか。心配してきたのに。</li> <li>・どうしてそんなにうそをつくんだ。</li> <li>・今度うそをついたら助けてやらないぞ。</li> </ul> <p>○二回目に羊飼いの子どもが「おおかみだ。」と言った時、あなただったらどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつとうそだから助けに行かない。</li> <li>・今度は本当かもしれないから助けに行く。</li> </ul> <p>○三回目に羊飼いの子どもが「おおかみだ。」と言った時、あなただったらどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・またうそだから助けに行かない。</li> <li>・今度こそ本当かもしれないから助けに行く。</li> </ul> <p>○どうして、羊飼いの子どもは二回、三回とくりかえしてうそをついたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人たちが何回もだまされるからおもしろい。</li> <li>・退屈だから。</li> </ul> <p>○なぜ大人たちは助けに来てくれなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・またうそだからと思っただから。</li> <li>・何回もだまされたから。</li> <li>・男の子が信じられないから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3枚目で読み、はじめは大人たちが本当に心配して助けに来たことがうそだとわかった時の気持ちを捉えやすくする。</li> <li>・信じる気持ち(助けたいと思う気持ち)がどのくらいあるかを心情メーターで表現させる。</li> <li>・4枚目を読み、大人をだました時の羊飼いの気持ちについて、子どもの表情に着目させて考えさせることで、楽しむ気持ちに気付くことができるようにする。</li> <li>・4枚目の場面の大人と羊飼いの子どもとのやりとりを役割演技することで、大人たちの気持ちを考えられるようにする。</li> <li>・5枚目の場面を読む。自分事として考えさせるために、前回がうそだったことを押さえた上で、教師が羊飼いの役になり、児童を大人たちの役にならせ、二回目以降の「おおかみだ。」を聞いてどうするかを考えさせる。</li> <li>・心情メーターをもちいることで、何度もうそをつかれた時の気持ちの変化に気付くことができるようにする。</li> <li>・6枚目の場面を読み、悪いことだと分かっているにもかかわらず、楽しいといやってしまう子どもの気持ちについて考えることができるようにする。</li> <li>・7枚目、8枚目の場面を読み、うそを繰り返すうちに、少しずつ人からの信用を失っていったことに気付かせる。</li> </ul>
---	---

サポートルーム2 道徳科学習指導案

日時 令和6年11月27日(水) 2校時  
 対象 サポートルーム2 6年 2名  
 指導者 講師 牧 美緒

- 1 主題名 節度ある生活 【A 節度、節制】  
 2 教材名 自分を守る力って? (「小学道徳 生きる力6」 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値  
 この主題は「A 主として自分自身に関すること」(3節度、節制)の5・6年生指導内容項目の中で、「安全に気をつけることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること」である。  
 5・6年生の段階では、危険から身を守り、自分や周囲の人々の安全に気を付けることが求められる。基本的な生活習慣についてはおおね身に付いているが、自己抑制が難しい児童も少なくない。児童が自分の行動を振り返り、改善すべき点に気が付き、今後対峙する可能性がある身近な危険について考えたりすることで、自ら節度を守り、節制を心掛けようとすることができると考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童たちは、危険から身を守ることの大切さを理解し、気を付けようとする意識は高い。しかし、体験したことがない状況ではどのような行動が望ましいか判断することができず、自分事として捉え、考えることが難しい。また周囲の雰囲気から流されてきたり、自分の欲求を優先してしまったりしたことで、対人関係での失敗を多く経験してきた児童たちである。中学校進学を控え、今後の生活環境が大きく変わり、児童が自分で考え行動しなければならぬ場面がさらに増えると考えられる。そのため今後対峙する可能性のある様々な危険に備え、回避するための具体的な方法を考えるとともに、欲に流されない決断力や状況に応じた判断力を身に付けさせたい。

(3) 教材について

本教材はそれぞれ違う状況が分かれた5つの場面で構成されている。  
 最初の場面ではおつかいを頼まれた主人公のヒデキが、途中で友達に誘われて遊びに参加した後、中学生に金銭を要求され困窮する。ヒデキの心情や行動から、危険な状況に陥つた原因に気付かせ、どのような判断が必要か、危険を回避するための具体的な方法を考えさせたい。  
 その後の場面では、ゲームに夢中になり急いで帰宅する途中で自転車と衝突しそうになる、知らない人から自分の写真を撮らせてほしいと言われるなど様々な状況が続く。

本時では安全に気を付けて生活することの大切さはわかっているにもかかわらず、自分の欲求を優先したりして判断力を鈍らせてしまったことで怖い思いをすることもあることを理解させたい。体験したことがない場面でもその後の展開を考え、どのような危険が潜んでいるかに気付かせ、回避するための方法を考えさせたい。

4 研究仮説との関連

仮説1

道徳科において、発問を吟味し、交流場면을効果的に設定することで、児童一人一人が考えを深めることができるのではないか。

教材の内容に対する理解を深めさせるために、パワーポイントを用いて、簡単なアニメーションを見せながら発問をする。登場人物の心情を考えさせる発問をし、その行動に至った理由に共感することで人間理解を図る。さらに役割演技を取り入れることで「自分だったらどうするか」を考え、自分事として捉えることができるのではないかと考える。また、話し合いの場を多く設定することで、自分の意見をもつことが難しい児童でも、友達との意見交流の中で理解を深めることができると考える。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うそをつかず、正直でいることの大切さに気付かせるようになる。</li> <li>・正直に話して良かった経験を振り返らせる。なかなか発表できない場合は、児童が正直に話した場面について教師が紹介する。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎うそばかりついているとどうなるでしょう。</li> <li>・うそばかりついていると、誰も信じてくれなくなる。</li> <li>・困ったとき助けてもらえなくなる。</li> </ul> <p>3 今までの経験を振り返り、正直に言えた時のことについて発表する。          ○うそをつかないで正直に言ってよかったと思ったことはありますか。          ・けんかをしてたいていしまっただけど、正直に話したら許してもらえた。          ・友達にいじわるをしたけど、正直に話したことを褒められた。</p> <p>4 ひつじかいの子どもにもどんな言葉をかけてあげるか考えて発表する。          ○助けてもらえなくてがっかりしているひつじかいの子どもにどんな言葉をかけてあげますか。          ・人をだましたらだめだよ。          ・うそをついたらだめだよ。          ・うそばかりついていると誰も信じてくれなくなるよ。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□うそばかりついていると信用を失うことを知り、うそをつかないで正直でいようという気持ちを高めているか。(発言)</li> <li>○ひつじかいの子どもにもアドバイスすることで、自分の内面を見つめ、うそをついたりごまかしたりしないで正直でいようとする意欲づけを図る。</li> </ul>

6 板書計画

「うそだらう。」		挿絵 7	「うそつきめ。」		挿絵 5	「また、うそか。」		挿絵 4	「うそはだめ。」		挿絵 2	「うそばかりついているとどうなるのかな。」		挿絵 1
「うそをつかなければよかった。」		挿絵 8	うまくだませた		挿絵 6	うまくいったぞ		挿絵 4	おもしろいな		挿絵 2			

仮説2  
道徳科と各教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連を図り、地域素材を生かした体験活動や交流活動を行うことで互いを高め合い思いやりの心や態度を育てることができないか。

自立活動のソーシャリスキルトレニングと関連付け、今後の社会生活を円滑に送ることができるときの具体的な方法を身に付けさせたい。

5 展開

(1) ねらい

自分を守るには、欲や周りに流されず、先を見通し自分に必要なことを自分でしっかり考えることが必要であることを理解させ、節度ある生活を送るための判断力を育てる。

(2) 展開 (1/1時)

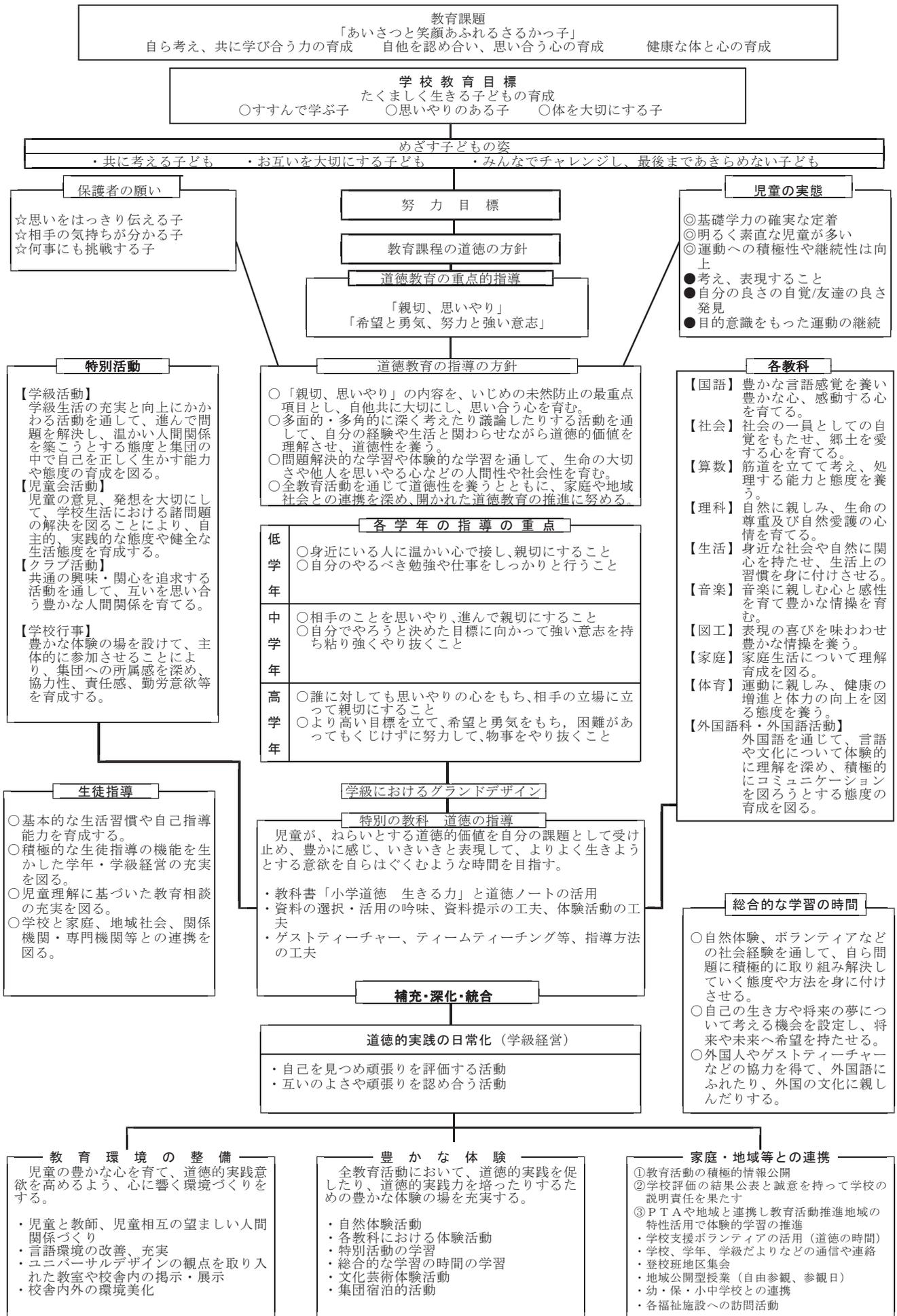
	学習活動	評価・留意点
導入	<p>○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応</p> <p>1 本時の学習内容について知る。</p> <p>○自分たちの身の回りには多くの危険があることを気付かせ、問題意識を高めるようにする。発表するのが難しい場合は、具体的な例を提示する。</p> <p>○今日は危険から自分の身を守るためにはどんな力が必要かについて考えます。</p> <p>自分の身を守るためには、どんな力が必要かな</p>	<p>○評価 ・留意点</p> <p>○評価に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの周りには多くの危険があることを気付かせ、問題意識を高めるようにする。発表するのが難しい場合は、具体的な例を提示する。</li> </ul>
展開	<p>2 教材「自分を守る力って？」を読んで考え、話し合う。</p> <p>○遊びに誘われたとき、ヒデキはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつかいの途中だけど、少しだけならいいかな。</li> <li>・友達に頼まれたから断れないな。</li> </ul> <p>○中学生たちに「お金を貸してくれないかな」と言われたときヒデキはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖い、どうしよう。困った。</li> <li>・寄り道しないでおつかいに行けばよかった。</li> </ul> <p>○このようなことが起きないように、ヒデキはどんなことを考えて行動すればよかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつかいを優先すればよかった。</li> <li>・友達を誘いをきちんと断ればよかった。</li> </ul> <p>○あなたがヒデキの立場だったら、危険な状況にならないためにどのような行動しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつかいを頼まれているから、今は遊べないと断る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の内容の理解を深められるよう、パワーポイントを用いて範読を行う。</li> <li>問題が起こった原因となる行動から、登場人物の弱さや見通しのなきに気付かせる。</li> <li>全員でお互いの意見を話し合い、登場人物の場面ごとの心情を考えさせる。</li> </ul>

展開	<p>○次の場面では、どんなことを考えて行動すればよいか、考えてみましょう。</p> <p>①の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくても、帰る時間をしっかり守る。</li> <li>・事故にあわないように周りをよく見て帰る。</li> </ul> <p>②の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怪しい人からは逃げる。</li> <li>・自分の写真が悪いことに使われるかもしれないと考えると、きちんと断る。</li> </ul> <p>③の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報を知らない人に教えない。</li> </ul> <p>④の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場の雰囲気の流れに流されないようにする。</li> <li>・親戚でもしてはいけないことはきちんと断る。</li> </ul> <p>◎それぞれの場面をふりかえり、自分を守るために必要な力とはどんな力が考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考えて判断する力、決断する力</li> <li>・きちんと断る力、勇気</li> <li>・計画を立てて行動する力</li> <li>・我慢する力</li> </ul>	<p>・場面ごとにどのような判断や行動が必要か全員で話し合う。</p> <p>・場面ごとにどのような危険が潜んでいるかを理解させる。</p> <p>○必要に応じて教師と役割演技を行い、自分事として捉えさせ、うまく回避するための具体的な方法を考えることができるようにする。</p> <p>□先を見通して危険を予測し、回避するための考え方や方法について考えることができるか。(発言)</p> <p>□危険を予測し、欲や周囲に流されないための心構えについて考え、必要性を理解しているか。(発言)</p>
終末	<p>3 教師の話聞く。</p>	<p>・最近の児童の関心が高かった事件の話題を提示し、身近に感じさせることで危険な状況に陥らないよう、日頃からよく考え行動することの大切さに気付かせたい。</p>

(6) 板書計画

☆	<p>自分の身を守るためには、どんな力が必要かな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・判断力</li> <li>・決断力</li> <li>・断る勇気</li> </ul>	<p>自分の身を守る力って？</p> <p>自分の身を守るためには、どんな力が必要かな</p>
場面①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守る</li> <li>・周りをよく見る</li> </ul>	<p>遊びに誘われたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつかいの途中だけど、少しならいいか。</li> <li>・友達に誘われたから断れない。</li> </ul>
場面②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと断る</li> <li>・怪しい人からは逃げる</li> </ul>	<p>中学生にお金を貸してと言われたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖い、どうしよう。</li> <li>・寄り道せずにおつかいに行けばよかった。</li> </ul>
場面③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報を教えない</li> </ul>	<p>どんなことを考えて行動すればよかったのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつかいを優先すればよかった。</li> <li>・友達を誘いをきちんと断ればよかった。</li> </ul>
場面④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断る勇気</li> <li>・きちんと断る</li> </ul>	<p>自分の身を守るためには、どんな力が必要かな</p>

# 道徳教育全体計画





# 平川市立尾上中学校





# よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業 完了報告書

(平川市立尾上中学校)

## 1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校では、「認めて育てる尾上中」をスローガンに掲げ、「自分の得意」で「自己肯定感」を伸ばさせ、「仲間との協働」で「思いやり」や「自己有用感」を高める指導に取り組んでいる。

校内研修において、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」を研究主題に掲げて研修を積み重ねてきた。道徳教育においても「深い学び」を実現させることを中心として、道徳的価値を自分事として捉えさせ、思いやり、相互理解、規則の尊重、よりよい学校生活、よりよく生きる喜びに重点を置き、体験的活動を中核とした教育活動全体を通して、豊かでたくましい心の育成を目指して、以下に示す内容を中心に研究を進めた。

### (1) 研究の方法

- ① 「考え、議論する道徳」への質的変換を図り、多面的・多角的な思考による「深い学び」につながる授業方法を工夫する。
  - ア 「考え、議論する道徳」を意識した授業展開を工夫
  - イ 「深い学び」につながる発問を工夫
  - ウ ICT機器の効果的な活用を工夫
- ② 学校行事等の実践的活動や問題解決的な学習を通して、人間としての在り方や自己の生き方についての考えを深めさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
  - ア 学校行事等のねらいへの道徳的価値の関連づけ
  - イ 生徒へのアンケート等を通しての道徳的価値の振り返りの充実
  - ウ 道徳的な判断力、心情、実践意欲等に関する評価の工夫

### (2) 研究の推進状況

- ① 年間指導計画を各教科と連携させる形に修正して、全教員が道徳科の授業を行うローテーション道徳を実施したことで、道徳教育に対する共通理解がより一層得られ、教育活動全体を通じて道徳教育を意識できた。

また、道徳教育推進教師による伝達講習や講師を招聘した校内研修、研究授業及び協議会を充実させたことにより、道徳科の授業における発問の精選、授業展開や授業形態の工夫、ICT機器の効果的な活用等についての研究が深まった。教員の道徳科の授業における質的転換の意識が高まった。
- ② 道徳科だけでなく、各行事の振り返りや全校道徳を通して、道徳的価値の理解を基に、生徒自身の生き方についての考えを深めさせることができた。生徒意識アンケートを実施することにより、生徒の意識の変容を明らかにすることもできた。

また、授業ワークシートや振り返り用紙を改良したことで、道徳科の学習状況等の把握に役立てることができた。さらに、保護者に道徳ファイルを見てもらう機会を設けたことで、本校の道徳科の取組を伝えることができ、保護者との連携を図ることもできた。

## 2 実施した研究内容

### (1) 校内の指導体制づくり

#### ① 年間指導計画の見直し(資料1-1)と別葉の活用(資料1-2)

昨年度までの道徳科の年間指導計画では、見ただけでは各教科との関連がわかりにくいという課題があった。そこで今年度は、取り扱う教材がどの教科と関連が深いのか、年間指導計画を見ただけでわかるようにし、指導者の得意を生かして教材を選択できるような改良をした。

また、別葉も準備し、道徳科の教材がどの教科と関連しているか、そして、どの学校行事や特別活動等に関わるのかを確認できるようにして指導に役立てられるように提示した。

#### ② ローテーション道徳の実施(資料2)

今年度も校長、教頭、養護教諭を含めた全教員が授業を行うローテーション道徳を行った。本校では、4月の段階で1年間の担当月を決定している。基本的に、所属学年の教員がその所属学年の道徳科の授業をすることとし、校長、養護教諭は1年間の中で各学級での授業を1回行い、教頭は教科指導をしている学年でのみ、年に1回授業を行うこととした。授業者は1つの教材を1組、2組の両クラスで使って授業をし、学級担任は自分のクラスの授業を参観し、生徒の様子を見取り、評価につなげられるようにした。

#### ③ 道徳資料コーナーの設置

職員室内に「道徳資料コーナー」を設置し、道徳科の資料等を活用しやすいようにした。

#### ④ 道徳アセスメント調査と生徒意識アンケートの実施

例年、春に1回のみ行っていた道徳アセスメント調査と生徒意識アンケートを、今年度は4月と12月の2回行い、生徒の実態と変容を把握し、今後の道徳教育の在り方の検討に活用することとした。



[道徳資料コーナー]

### (2) 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導力向上や指導方法の工夫

#### ① ワークシートの改良、蓄積と振り返り用紙の見直し(資料3・4)

これまでも授業ワークシートは基本的に授業者が作成し、授業の振り返りや評価に役立っていたが、今年度は、ワークシートに記載する5つの必須事項(年月日・教材資料名・内容項目・生徒氏名欄・今日の授業の振り返り)を統一し、授業者にとっても生徒にとっても振り返りがしやすいように改良した。また、ワークシートのデータや略案は校内の共有フォルダに収納し、全教員がいつでも活用できるようにした。

本校では、通知票への道徳科の評価の記載は年度末に一度であるが、学期ごとに振り返り用紙を用意し、学びの振り返りをさせている。昨年度までは、教科書についていたものをそのまま使用していたが、生徒の学びがより詳しく確認できるように、今年度は振り返り用紙を新しく作成した。学期末にはワークシートを蓄積した道徳ファイルを家庭に持ち帰らせ、生徒の学習の記録と本校の道徳科の授業内容を保護者にも届けた。

#### ② 県外先進校視察(6月19日)

本校の校内研修の主題にもある「『主体的・対話的で深い学び』の実現」と「『考え、議論する道徳』の授業づくり」を3年計画で研究している山梨県甲府市立西中学校の道徳科の取組を視察してきた。山梨県甲府市立西中学校は、令和4～6年度の山梨県教育委員会指定の道徳教育推進校となっており、昨年度、公開研究会が行われている。今回、参観させていただいた授業はそのときの公開授業の指導案を生徒の実態に合わせ、さらにブラッシュアップ

ブしたものであった。導入部分でのICT機器の活用、板書のまとめ方、展開部分での班活動の工夫等、参考になることが多かった。授業後には、授業者と研修主任から道徳科の取組について詳しく話を聞くことができた。学校全体での熱心な研究の様子と協力体制が感じられた。この視察を通して得たことは秋の要請訪問の指導案づくりのヒントになるとともに、今後の本校の道徳科の取組の見直しにもつながる大変有意義な視察となった。



[山梨県甲府市立西中学校の授業風景]

③ 全日本中学校道徳教育研究大会神奈川県大会への参加(11月21～22日)

神奈川県で行われた全日本中学校道徳教育研究大会に本校から2名出席した。1日目は川崎市立渡田中学校の公開授業を参観した。コの字型での授業の座席やICT機器の使い方などが参考になった。2日目の課題別分科会では、教材研究の在り方と発問を中心とした授業づくり、道徳科の指導と評価についての発表を聞き、県外でのさまざまな実践を知ることができた。また、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の井上 結香子 氏による指導講話もあり、自校の道徳教育と道徳科の授業の取組を見直す有意義な時間となった。



[協議会の様子]

④ 校内研修の充実(道徳教育推進教師による伝達講習、講師招聘での理論研修、市の研修)

今年度は、「考え、議論する道徳」への質的変換を図り、より「深い学び」につなげるために、本校教員の実践的指導力向上に向けて、校内研修を充実させた。

ア 道徳教育推進教師による伝達講習(8月7日)

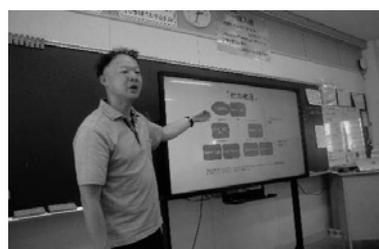
6月に視察した山梨県甲府市立西中学校での道徳教育の取組を伝達するとともに、これまでの本校の取組を振り返った。また、11月の要請訪問に向けて、授業展開や発問づくりの提案を行った。指導過程については、県総合学校教育センター研修で聴講した十文字学園女子大学教授の浅見 哲也 氏の理論を紹介し、指導案づくりの方向性を示した。



[道徳教育推進教師からの伝達]

イ 講師招聘での理論研修(8月7日)

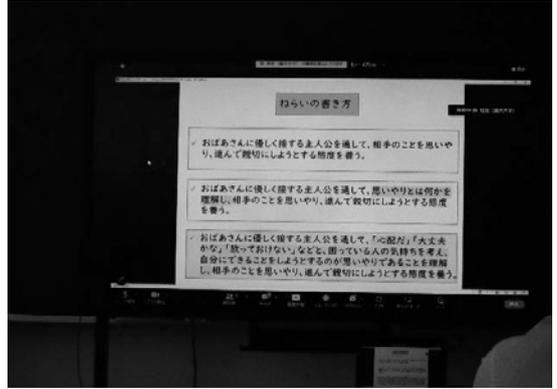
講師に弘前大学教育学部准教授の森本 洋介 氏をお招きし、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的充実を図った指導の在り方と道徳科指導の在り方」と題して、講義・演習を行った。学習の振り返りの大切さとともに、教材を額面通りに受け取るのではなく、批判的に読み解き、指導につなげる大切さを学ぶことができた。



[森本准教授による講義]

ウ 平川市教育委員会主催の研修(8月16日)

猿賀小学校と尾上中学校のオンラインによる合同研修では、講師に畿央大学教授の島恒生氏をお招きし、「考え、議論する道徳の進め方」と題して講義が行われた。講義では、よいところをもっと伸ばすというスタンスで取り組むことの大切さや、小さな意見も拾って授業することの大切さ、また、書く活動は中心発問と振り返りの2回でも十分であるといった授業を組み立てる上でのヒントをたくさん学ぶことができた。



[オンライン研修の様子]

⑤ 研究授業及び協議会の実施

ア 要請訪問指導案検討会①(9/25)

11月の要請訪問に向け、授業者から指導案についての大まかな説明をしてもらい、授業者が授業をするにあたって現段階で迷っている点について、全教員で考えを共有し、それについて検討した。

主題名 心の弱さを乗り越えるために【内容項目D-(22) よりよく生きる喜び】
教材名 銀色のシャープペンシル(出典:「新訂 新しい道徳1」東京書籍)

- 教材が長いので、事前に教材をすべて読ませておくべきか。前半、後半に分けて読ませるか。
- 個で意見を書かせる、あるいは付箋に書かせる、どちらがいいのか。書く作業に時間がかかるので、議論する時間が少なくなるという懸念があり、3パターン考えてみたが、それでいいのか。
  - ・パターン1: ワークシート→付箋→グループで共有(仲間分け)→全体で共有
  - ・パターン2: ワークシート→グループで共有(仲間分け)→全体で共有
  - ・パターン3: 付箋→グループで共有(仲間分け)→全体で共有
- 構成(展開部分)と発問が合致しているか。また、中心発問はねらいに迫るものになっているか。人間理解(資料前半部分)を3パターン考えてみたが、それでいいのか。
  - ・パターンA: 「ちょうどいいや」と思ってポケットにしまったぼくは、どんな思いだっただろう。
  - ・パターンB: 「とった」という言葉に一瞬血の気が引いたぼくは、どんな気持ちだったのだろう。
  - ・パターンC: 「これは前に自分で買ったんだぞ」と言ったぼくは、どんな気持ちだっただろう。
- 他者理解(資料の中～後半部分)についての中心発問の検討
  - ・中心発問「卓也が謝ってきたとき、ぼくはどんな気持ちになっただろうか」

○価値理解(資料後半部分)についての発問の検討

- ・卓也の家に向かって歩き出したのは、「ぼく」のどんな気持ちからですか？

○検討会で出された意見

- ・長い教材なので、事前に読ませておいてもいいと思う。
- ・事前に読ませるのであれば前半だけにしておく。授業の当日は、登場人物の確認を含めて前半の内容をおさらいして中心発問に入っていけばいい。
- ・導入部分はできるだけ短くし、中心発問で時間を多く割けるようにすべき。
- ・時間のことを考えると、考えはすぐ付箋に書かせる方がよいのではないか。自分の書いた付箋はあとで、自分のワークシートに貼らせればよい。
- ・パターンBの発問だといろいろな考えが出てきそうだが、「血の気が引いた」の意味がわからないのではないか。
- ・中心発問で「どんな気持ちか」という語尾になっているが、「どんなことを考えたか」とした方が、多角的な思考につながるのではないか。
- ・価値理解を深めさせる発問は「なぜ？」と聞いた方がより深まりそう。

イ 要請訪問指導案検討会②(10/22)

前回の検討会で出された意見を基に、授業者が最終的に直したものを全教員で確認。また、修正を加えた部分について授業者に説明してもらった。

○前回の研修を受けて修正を加えた部分について

- ・教材は前半、後半に分けて読むことにする。前半部分のみ、事前に読んでおく。
- ・中心発問は、パターンCをベースにし、語尾を「どんなことを考えたか」に変える。
- ・中心発問では、個で付箋に意見を記入→グループで共有(グルーピング)→全体で共有
- ・中心発問では、少数意見を拾い上げ、切り返しをする。
- ・価値理解の発問では「なぜ」という聞き方に変える。
- ・終末の振り返り(授業で学んだこと)を記入する際に、「心の弱さを乗り越えるには？」の視点を含めて記入させるようにする。

ウ 要請訪問(11/6) 1年1組での授業

○協議のポイント

- ・本時の展開は「深い学び」を促すものであったか。
- ・発問の構成と工夫は適切であったか。
- ・その他全体を通して

○協議会より

【成果】〈本時の展開について〉

- ・教師が音読したことで生徒を引き付けた。
- ・自分のこと→グループの意見→共有という流れが良かった。
- ・教材を前半、後半で読んだことがよかった。先読みを防ぎ、内容も整理できた。
- ・付箋を使ったことで、話すのが苦手な生徒でも自分と向き合いながらできたのではないか。ICTより良かったのでは。
- ・単語でしか考えを書けなかった生徒も、グループワークのおかげで考えが深まっていた。
- ・グループワークにより、新たな価値に気づきながらさらに付箋を書いていた生徒もいた。
- ・授業者自身の自己開示も、生徒が安心して話せる要因になったと思う。
- ・板書の構成が工夫されていた。

【課題】

- ・意見共有後の議論がもう少しあってもよかった。



[要請訪問の授業の様子]

- ・50分に収めるための工夫として、他にどんなことが考えられるか。
- ・教材自体の難しさと、理解に苦しんだ生徒もいたのではないか。
- ・「後悔」「罪悪感」「もやもや」といった言葉の意味を理解しているのか。
- ・最後の「人間の弱さ」に関して、気づきはあったが本当の意味で染みていたのか。もっとお互いに聞き合うことが必要だったかもしれない。

【成果】〈発問の構成と工夫について〉（【課題】は、特に出なかった）

- ・中心発問も補助発問もベストであった。
- ・生徒の実態にあった中心発問だった。
- ・発問がどんどん深くなり、道徳的価値に迫ることができていた。
- ・校内研修で検討した内容も、価値項目の深まりにつながっていた。

○全体を通して

- ・グループ構成がよかった。授業者である学級担任の日頃の生徒の観察、工夫のおかげ。
- ・実物投影機の利用の仕方がよかった。

○助言者から（平川市教育委員会 主任指導主事 長内 和生 氏）

本時では、事前アンケートを行ったことが問題意識の醸成につながっていた。中心発問が弱さや葛藤を乗り越えることの難しさに気づかせるものになっており、「本当にそれでいいか」という問い返しによって生徒の思考がさらに深まっていた。物事を多面的・多角的に考えさせるためには、特に対話が重要になるので、思考を言葉にする訓練も大事にしてほしい。また、人間としての生き方について深めるために振り返り（内省）も大切にしてほしい。

(3) 行事を通じた道徳的価値の育成

① 特別活動との関連

ア 中体連(夏季・秋季)に向けての全校生徒による応援メッセージの掲示を行った。

「試合に向けての力に！」という思いを込めて、それぞれがエールを送り合った。

イ 長期休業(夏・冬)に有志による校内清掃ボランティア活動を行っている。学校の一員であることの自覚を促し、よりよい校風づくりにつながる活動となっている。



[応援メッセージの掲示]



[校内ボランティア清掃の様子]

② 全校道徳講話(9月19日)

今年度は講師に八戸市出身でメンタルプロコーチの津村 柁広氏をお迎えして全校道徳を行った。

「自律と自立」の観点から、自分の弱さを認め、それに打ち克つ方法をレクチャーしていただいた。本校の道徳科の重点指導項目である「よりよく生きる喜び」につながる講演内容で、講演を聴いた生徒の反応はとてもよいものであった。



[全校道徳講話]

### 3 実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画、別葉、年間指導計画の作成</li> <li>・道徳アセスメントの実施・分析①</li> </ul>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒意識アンケートの実施・分析①</li> <li>・授業公開(参観日)</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外先進校視察：山梨県甲府市立西中学校（6/19）</li> <li>・計画訪問（6/25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師 他1名</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳振り返り①の実施</li> <li>・県道徳教育推進協議会への参加①（7/8）</li> <li>・小中学校道徳教育協議会①への参加（7/26）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師</li> <li>・代表</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季校内研修（8/7）</li> <li>① 道徳教育推進教師による県外先進校視察報告</li> <li>② 講義・演習 〈テーマ〉「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図った指導の在り方と道徳科指導の在り方 (講師：弘前大学教育学部准教授 森本 洋介 氏)</li> <li>・オンライン小中合同研修会（8/16） 講義「考え、議論する道徳」の進め方 (講師：畿央大学教授 島 恒生 氏)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師招聘</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校道徳講話（9/19） 「ワクワクする未来の作り方」（講師：津村 柁広 氏）</li> <li>・要請訪問指導案検討会①（9/25）</li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校道徳教育協議会②への参加（10/16）</li> <li>・要請訪問指導案検討会②（10/22）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要請訪問（11/6） 1年1組授業「銀色のシャープペンシル」 (指導・助言：平川市教育委員会主任指導主事 長内 和生 氏)</li> <li>・全日本中学校道徳教育研究大会への参加（11/21～22）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事要請</li> <li>・道徳教育推進教師 他1名</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳振り返り②の実施</li> <li>・生徒意識アンケートの実施・分析②</li> <li>・道徳アセスメントの実施・分析②</li> <li>・教師アンケートの実施・分析</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季校内研修（1/14） 「今年度の本校の道徳教育の取組についての振り返り」</li> <li>・県道徳教育推進協議会への参加②（1/14）</li> <li>・道徳教育パワーアップ協議会（1/24）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳振り返り③の実施</li> <li>・研究のまとめ、研究紀要の作成</li> </ul>	

## 4 取組の成果と課題

### (1) よりよい生き方を実践する力を育む道德教育に係る成果の概要

#### ① 校内の指導体制づくり

別業を活用し、年間指導計画も見直したことで、指導の見通しが立ち、全教員での道德科の授業というローテーション道德にもうまくつながった。また、道德資料コーナーを職員室内に設けたことで、いつでも気軽に書籍を手にとって教材研究の参考にすることができた。また、職員室内でも自然と道德科の話題が出るなど、学校全体で道德教育に取り組む雰囲気が生まれた。

#### ② 「考え、議論する道德」の実現に向けた指導力向上や指導方法の工夫

校内研修を充実させ、研究授業を通して日頃の授業を振り返ることや、県外の授業の取組を紹介することで、教員一人一人の授業に対する意欲の向上にもつながった。

### (2) 教師アンケートの結果より(12月実施)

#### ① 「考え、議論する」という点でどのような工夫をしたか

- ・教材の吟味及び発問の工夫。
- ・発問は、立場や意見が分かれ、深まりを得られる発問になるよう考えた。
- ・ワークシートに記入することをできるだけ少なくし、中心発問を考えたり、話し合ったりする時間を確保すること。
- ・時間配分と班活動の方法。
- ・生徒が自分事として考えられるような発問を考えるとともに、お互いの価値観を大切にしながら話合いができるようにした。
- ・話合いが円滑にできるようにグループにおける人間関係や役割分担、また、発表しやすい雰囲気づくりをした。
- ・生徒からの意見や考えをスムーズに次の生徒が発言しやすいように、かみ砕いて説明するなどした。
- ・中心発問を生徒の実態に即して、どのようにするかを考えるようになった。
- ・ICT機器を活用して、全員が全員の考えに触れる取組をした。

#### ② 「深い学び」につなげる発問という点で、どのような工夫をしたか

- ・学びを個→班→全体→個のサイクルになるようにすることで、学びを共有し、最終的には個に還元されるような構成を心掛けた。
- ・価値項目に迫るために中心発問をどうするか、文言をどうするかなど細かい点まで考えた。
- ・展開場面での発問が、人間理解→他者理解→価値理解となるような構成にした。
- ・授業の発問を分析しながら、より生徒の実態に合う発問をした。
- ・身近なことを自分事として考えさせた。
- ・リフレーミングを取り入れるなど表現の工夫を促した。
- ・生徒の考えを紹介し、補助発問を行った。

#### ② ICT機器の活用で効果的だったこと

- ・グループの協議結果を送信してもらい電子黒板に映すことで、時間短縮や共有の手間の解消に生かせるようにした。
- ・導入部分で、関連するニュース動画やグラフなどを見せた。
- ・文面だけでは場面が思い浮かばないだろうと予想されるときに画像などで提示した。
- ・発問等を何度も流していつでも確認できるようにした。
- ・伝記もの教材では、その登場人物のドラマの部分を見せたことにより内容が理解しやすく考えが深まった。

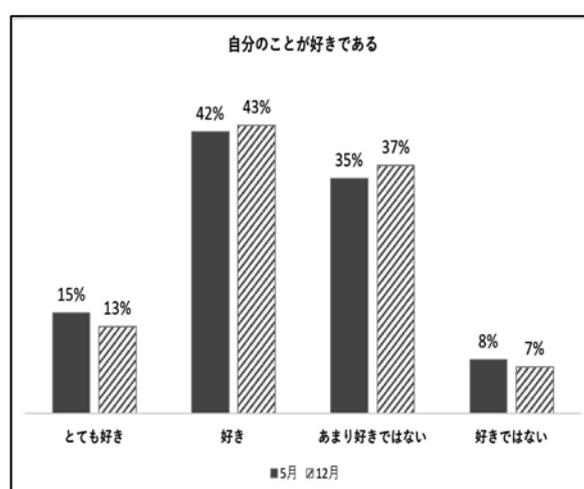
- ④ 「道徳の授業」に取り組む中で生まれた「前向きな変化」や「成長した」と思うこと
- ・教材分析や発問の吟味はこれまでよりも深く行うようになった。
  - ・「道徳の授業を楽しんでいる」と言ってくれる生徒が増えていると思う。
  - ・いろいろな方法で授業を試してみようと思うようになったこと。
  - ・発問や中心発問など、気を付けなければならない意識が強まった。
  - ・ICT機器の積極的な活用と、全員の考えを常に共有することによる授業展開。
- ⑤ 「道徳の授業」を実施する上での課題点
- ・教材研究をする時間がなかなか取れていないこと。
  - ・週に一度の授業なのでなかなか授業の技量が向上していないと感じる。他の先生方の授業を参観したり、複数クラスで同一教材の授業をしたりするなどして向上につなげたい。
  - ・教材も見方を変えると様々な切り口があり、教科書で示された内容項目で授業するよりも別の内容項目で授業したほうが効果的な場合もあると捉えているが、年間計画に沿った価値項目で授業を進めることを意識していきたい。
  - ・ジレンマ教材は比較的扱いやすいが、そうでないと難しいと感じる。事例がたくさんあると実施しやすい。
  - ・ICT機器の活用を努めているが、やはり生徒の意見は、ワークシートに自分で書き込む＋黒板に板書するのがよいのではないかと最近思い始めている。
  - ・ICT機器を活用しようとする、ICT機器に夢中になって議論が進まない場合がある。
  - ・自分の意見や考えを気兼ねなく伝えることで議論を深めていくために、ICT機器の機能を活用し匿名でチャットのような方法を活用することをイメージしているので、そのためのICT機器活用指導力を高めることが課題。
  - ・教材の量が多いと「議論する道徳」までもっていくことが難しい。そこをもっと聞いてみたいのに、と思うところがあっても時間がなくて聞けないと思うと、50分で「考え、議論する道徳」の授業づくりは難しいと感じた。

教師アンケートの結果を見てもわかるように、今年度の授業実践や研修を通して、授業につながるヒントをたくさん得ることができたと実感できた。授業を互いに見合うことや、授業について話をするといったことが、道徳教育について考える機会が増えたことが授業改善につながった。また、今回出された課題を次年度に向けて見直していきたい。

### (3) 行事を通じた道徳的価値の育成

特別活動と関連させて、道徳的価値の育成に取り組んできたが、今年度の重点項目としてきた「思いやり」「相互理解」「よりよい学校生活」「よりよく生きる喜び」につながった。しかし、生徒意識アンケートの「自分のことが好きか」という項目では5月と12月を比較してみても、結果はあまり変わらず、約4割の生徒が否定的な回答をしている。

道徳科だけで改善が見られるものではないと思われるが、継続した授業と教育活動全体を通して生徒の自己肯定感を伸ばさせ、自己有用感を高めさせることを目指していきたい。



(4) 調査から見られる成果

① 道徳アセスメント調査の結果から

ア 視点：道徳的価値の理解と道徳的行為の実践意欲

		高いところ	低いところ
1年1組	4月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点C(主として集団や社会との関わりに関すること)
	12月	視点A(主として自分自身に関わること)	視点C(主として集団や社会との関わりに関すること)
1年2組	4月	視点A(主として自分自身に関わること)	視点C(主として集団や社会との関わりに関すること)
	12月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点C(主として集団や社会との関わりに関すること)
2年1組	4月	視点A(主として自分自身に関わること)	視点B(主として人との関わりに関すること)
	12月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点A(主として自分自身に関わること)
2年2組	4月	視点C(主として集団や社会との関わりに関すること)	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)
	12月	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)	視点B(主として人との関わりに関すること)
3年1組	4月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)
	12月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点C(主として集団や社会との関わりに関すること)
3年2組	4月	視点A(主として自分自身に関わること)	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)
	12月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)
3年3組	4月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)
	12月	視点B(主として人との関わりに関すること)	視点D(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)

〈概況〉

道徳的価値の理解と道徳的行為の実践に関しては、各学年ともに4月と12月を比較してみると大きな変化は見られなかった。しかし、2学年では、4月に低かった視点が12月には高まっていた。

イ 理解と行動の不一致（よい行為と知っていながら、行う自信がなかったり、迷いがあったりする項目）

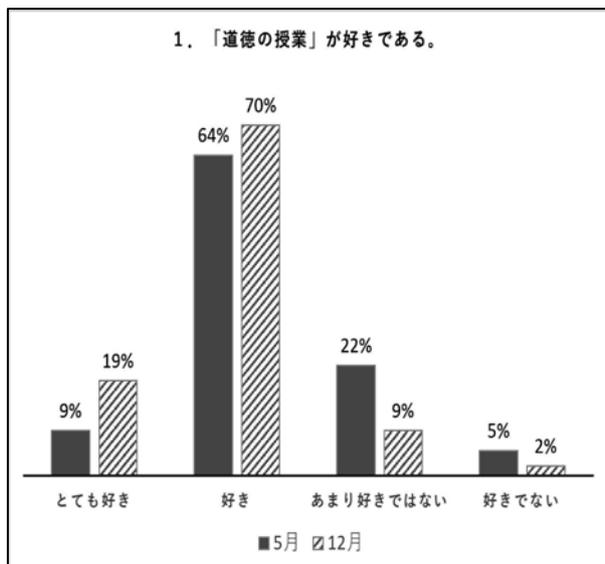
	4月	12月
1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心</li> <li>・友情、信頼</li> <li>・思いやり、感謝</li> <li>・自然愛護</li> <li>・真理の探求、創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度</li> <li>・思いやり、感謝</li> <li>・真理の探求、創造</li> <li>・自然愛護</li> <li>・礼儀</li> </ul>
2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望と勇気、克己と強い意志</li> <li>・向上心、個性の伸長</li> <li>・思いやり、感謝</li> <li>・よりよく生きる喜び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望と勇気、克己と強い意志</li> <li>・向上心、個性の伸長</li> <li>・国際理解、国際貢献</li> <li>・よりよく生きる喜び</li> <li>・よりよい学校生活、集団生活の充実</li> </ul>
3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する心</li> <li>・自然愛護</li> <li>・国際理解、国際貢献</li> <li>・よりよく生きる喜び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する心</li> <li>・自然愛護</li> <li>・国際理解、国際貢献</li> <li>・よりよく生きる喜び</li> <li>・公正、公平、社会正義</li> </ul>

〈概況〉

理解と行動の不一致の項目に関しては、各学年ともに4月と12月を比較してみると大きな変化は見られなかった。よい行いであることを自覚しているにもかかわらず、行動につながっていない原因を探りつつ、本校の道徳科の重点項目としている「思いやり」「よりよい学校生活」「よりよく生きる喜び」に関しては特に、道徳科の授業を要としながら、各教科や行事等とも関連づけて継続して取り組んでいく必要がある。

② 生徒意識アンケートより(1年生：62名 2年生：64名 3年生：66名 計192名回答)

ア 質問項目1について

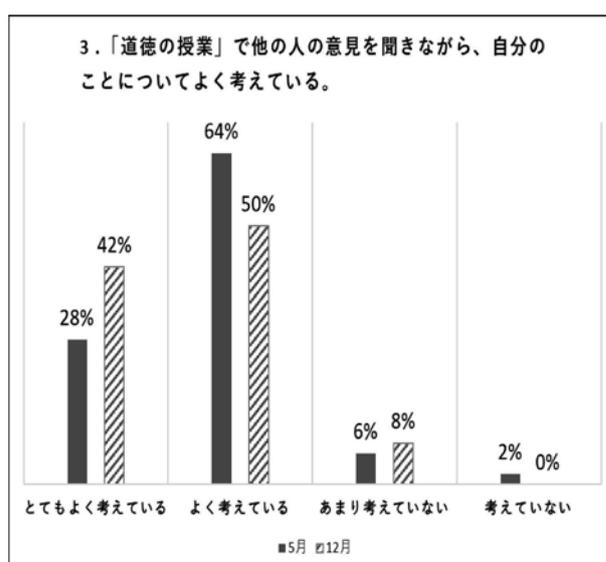
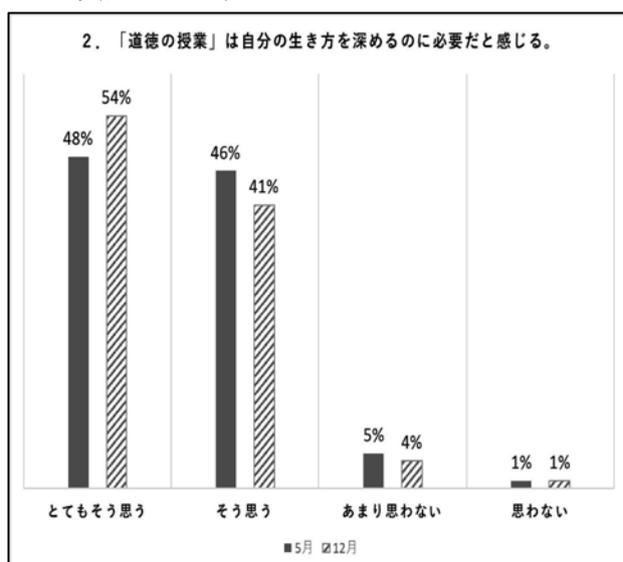


5月に「とても好き」「好き」と回答(以下肯定的に回答)した生徒の割合が約7割であったが、12月には約9割という結果となった。また、5月に「あまり好きではない」「好きではない」と回答(以下、否定的に回答)した生徒の割合は約3割であったが、12月には約1割へと減少した。

肯定的に回答した生徒の記述を見ると、「意見交流することで新しいことに気付けるから」、「いろいろな価値観にも気付けるから」、「いろいろな意見が聞けて楽しいから」、「班での話合いが楽しいから」、「自分の考えを自由に書けるから」、「校長先生と教頭先生の授業が楽しかったから」、「自分の考えを否定されることがないから」

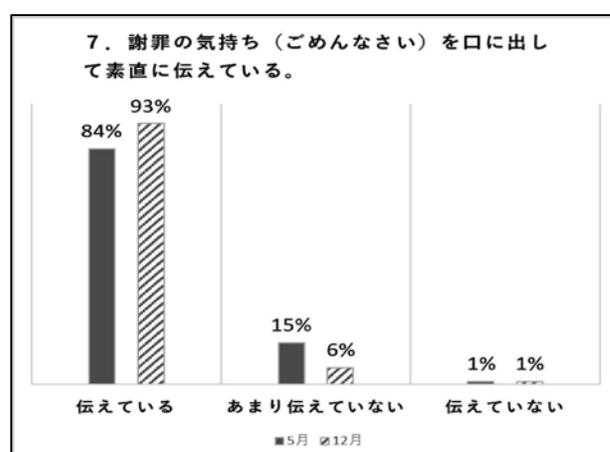
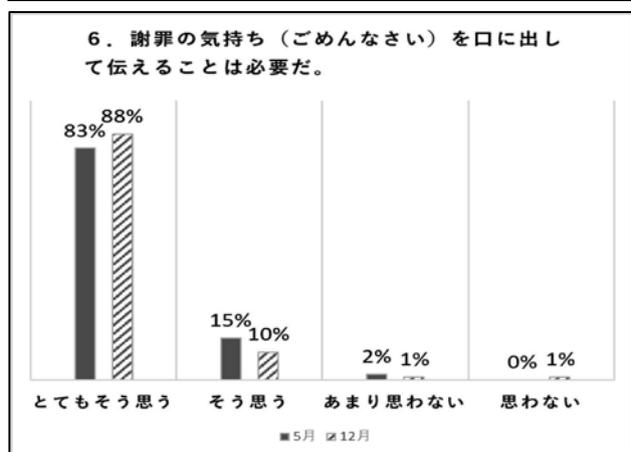
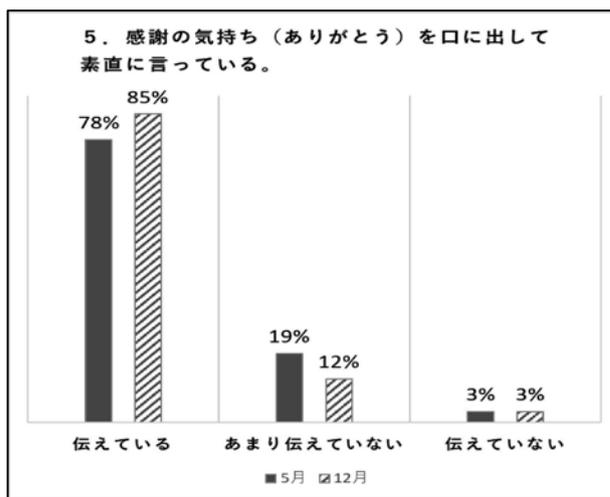
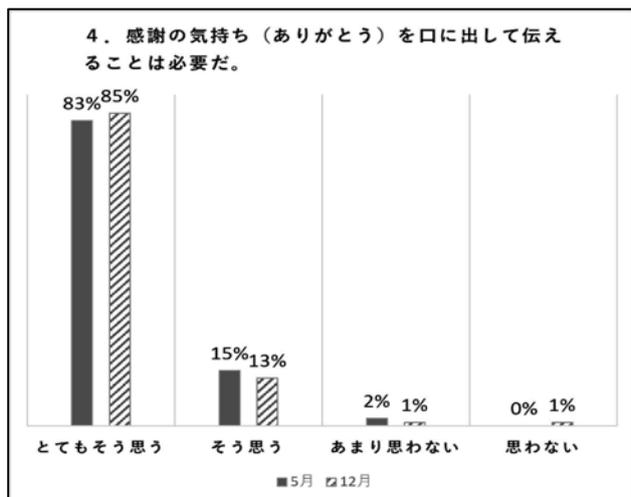
といった理由が挙げられていた。一方で、否定的な回答をした生徒の記述を見ると、「典型的な話しかなくてつまらないから」、「自分の考えに自信がもてないから」、「考えるのが難しいから」といった理由が挙げられた。

イ 質問項目2、3について



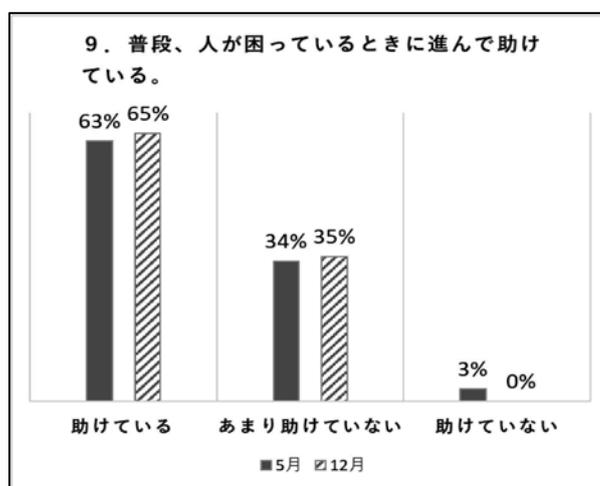
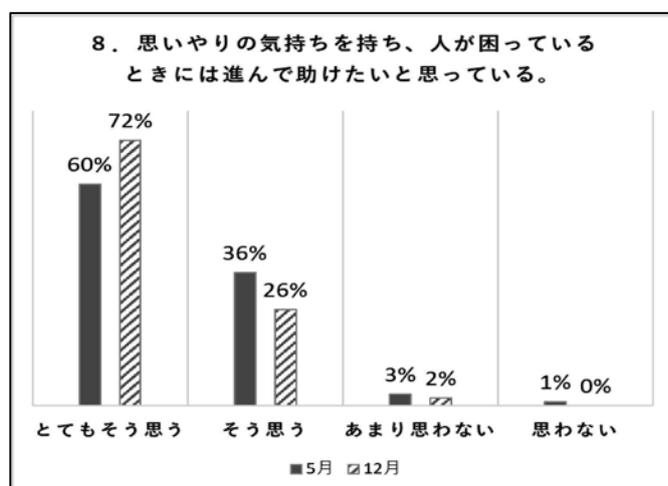
質問項目2について、肯定的な回答をした生徒の割合は大きく変化していないが、内訳を見ると、「とてもそう思う」と答えた生徒が6%増加した。また、質問項目3については、5月に比べて、他の人の意見を聞きながら自分のことについて「とてもよく考えている」と答えた生徒が14%増加し、「考えていない」と答えた生徒は0%になった。多くの生徒は授業を通して、自分の生き方を考えていることが分かった。

ウ 質問項目 4～7について



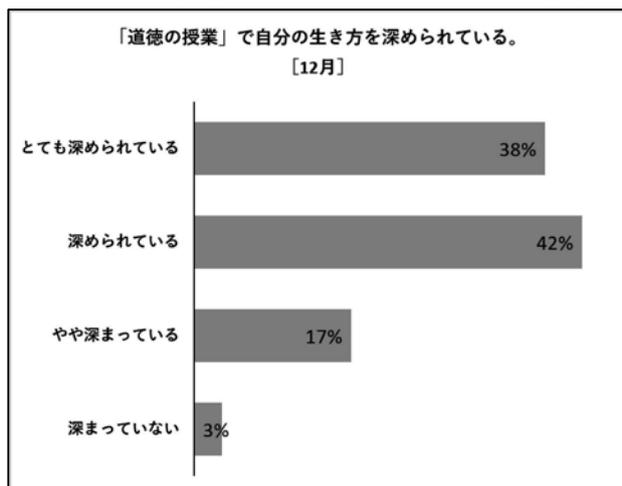
質問項目 4～7について、感謝の気持ち（ありがとう）や、謝罪の気持ち（ごめんなさい）の気持ちを口に出して伝えることの重要性は多くの生徒が感じていることがわかるが、口に出して素直に「あまり伝えていない」と答えた生徒の割合が、5月に比べて12月では減少し、「伝えている」と答えた生徒の割合がそれぞれ増加した。

エ 質問項目 8、9について



5月のアンケートでは「人が困っているときに進んで助けたいと思わない」、「人が困っているときに進んで助けていない」と回答した生徒は1%いたが、12月のアンケートでは0%になった。また、質問項目 8において12月のアンケートでは「とてもそう思う」、「助けている」と回答した生徒が5月に比べて増加している。

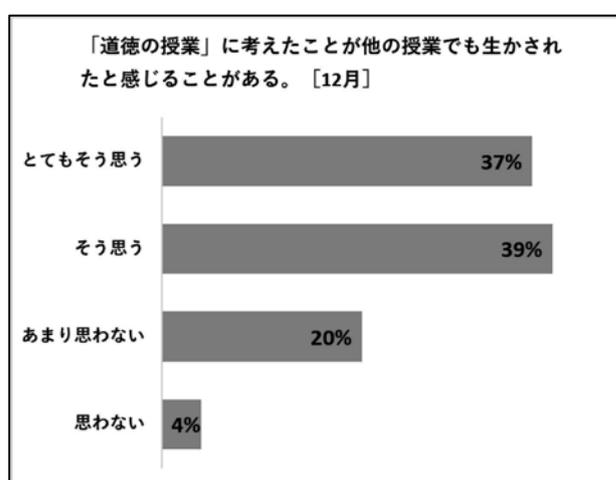
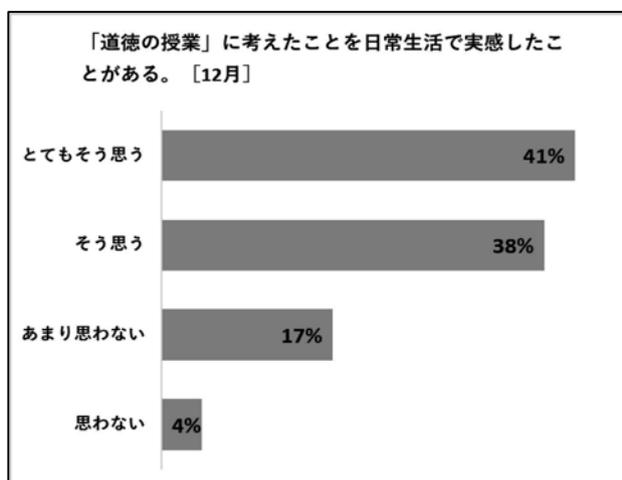
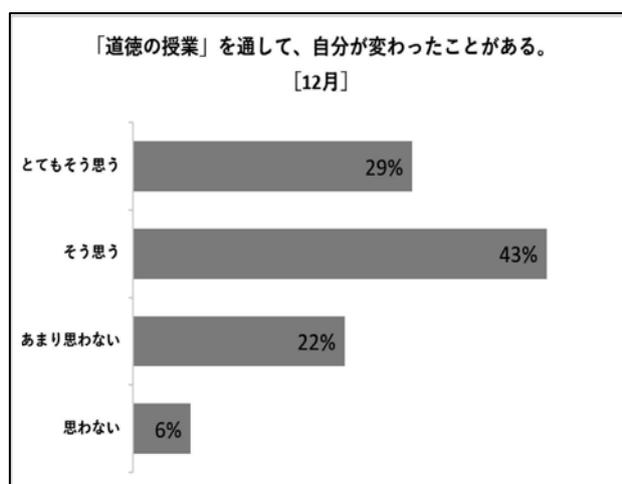
12月の生徒意識アンケートにおいては、以下の質問項目を追加した。



左のグラフから分かるように、ほとんどの生徒が自分の生き方を深められていると回答している。この結果は、「道徳の授業が好きだ」と回答した生徒が増加していることや、授業で他の人の意見を聞きながら自分のことについてよく考えているという肯定的な回答が増加したこと、また、自分の生き方を深められていると回答した生徒が増加したことともつながっていると考えられる。

また、「どんな点が変わったと思うか」という記述項目では、次のような意見があった。

- ・友達や周りの人のことを考えられるようになった。
- ・人とのコミュニケーションが取れるようになった。
- ・いろいろなものを大切にしたいと思えるようになった。
- ・柔軟に物事を考えられるようになった。
- ・すべてを他人事だと思わなくなった。
- ・意見が違ったとしても、いろいろな可能性を考えて納得できるようになった。



12月の生徒意識アンケートで、「あなたにとって道徳の授業の時間はどんな時間か」という記述項目では、「自分のことを見直せる時間」、「自分の心と向き合う時間」、「自分にとって必要な力を身につける時間」、「ありのままの自分を出せる時間」、「自分の考えを素直に伝えることができ、社会に出るために必要なことを学ぶ時間」、「どうやって対処すればいいかを考える時間」、「自分を見つめ、なおかつ周りの人からヒントをもらえる時間」等の意見があった。

道徳科の授業が生徒にとって、かけがえのない時間になっていることがうかがえる。今後も、生徒一人一人がよりよい生き方を考える時間となるよう、継続して取り組んでいきたい。

## 第1学年1組 道徳科学習指導案

日 時 令和6年11月6日(水) 5校時

場 所 1年1組教室

対 象 1年1組32名

授業者 石井 直子

### 1 主題名

心の弱さを乗り越えるために 【内容項目D-(22) よりよく生きる喜び】

### 2 教材名

銀色のシャープペンシル(出典：新訂 新しい道徳1 東京書籍)

### 3 ねらい

内なる弱さと良心に葛藤しながら卓也の家に向かった主人公の思いを自分事として考える活動を通して、誰しも自らの弱さや醜さを克服しようとする強さや気高く生きようとする心があることを理解し、状況に合った適切な行動をしてよりよく生きようとする態度を養う。

### 4 主題設定の理由

#### (1)ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること〔よりよく生きる喜び〕」「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。」を取り上げたものである。

誰の心の中にも弱さや醜さがあり、自分を律することができず、ついつい怠けてしまうことがある。してはいけないと知りつつ、自分の利益を最優先にして、他人の不利益を無視して行動してしまうこともある。しかし、同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心をもっている。誰もがもつ良心によって悩み、苦しみに打ち勝って、人間として生きる喜びに気付いたとき、人間は強く、気高い存在になり得る。

小学校の段階では、高学年でこの内容項目が置かれるとともに、小・中学校が連携協力し、発達の段階に応じた指導内容と方法について工夫を重ねることが求められている。また、中学校の段階では、自分だけが弱いのではないということに気付かせ、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるということが求められている。自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられる確かな自信をもち、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解させ、よりよく生きる喜びを見いだせることに気付かせたい。

本時の学習内容を自分事として考えることを通して、人間は誰にでも弱い部分があることを知るとともに、弱さを克服することで人間として強く気高いものになることを見出し、生きる喜びを得ようとする態度を育てていきたい。

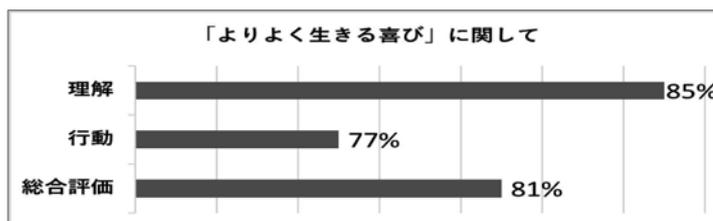
#### (2)ねらいに関わる生徒の実態について

一般的に中学生の段階では、人間は弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解できるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてず、劣等感にさいなまれたり、人をうらやましく思ったりする生徒も少なくない。

本学級の生徒は、元気で明るく、行事等に積極的に取り組むことができる。一方で、話を聞く場面や課題に取り組む場面の切り替えができなかったり集中力が続かなかったりすることがある。また、経験や語彙力の少なさから深まりのある考えを引き出すことが難しい。相

手がどう思うかに思いが至らず、後先を考えずに行動してしまうことや、自己理解や他者理解の弱さから自己肯定感が低く、自信をもてない生徒も多い。

7月に実施した道徳アセスメントの結果から、「よりよく生きる喜び」の内容項目に関して、道徳的価値の理解が非常に高かった。行う自信がなかったり迷いが



あったり、道徳的実践力に関しては若干低いものの全体的には高い結果であった。そのため、本時では、主人公の立たされた状況に共感して誰しものが心の弱さをもっていることを感じさせたい。また、その弱さを克服しようと自己と向き合う姿勢から、よりよく生きる喜びを見出し、今後の学校生活や人との関わりの中で、具体的な行為や態度として表れるようにさらに伸ばしていきたい。発表の場面と話を聞く場面の切り替えをしっかりと行いつつ、活発な意見交換ができるようにさまざまな意見を拾い上げ、生徒の意見を尊重していけるようにしたい。

### (3)教材について

本教材は、主人公が卓也のシャープペンシルを無断で自分のものにし、自分の弱さと良心に向き合う姿を通して、ねらいに迫るものである。

主人公の「ぼく」は、教室に落ちていたシャープペンシルを拾い、嘘をついてばれなければいいと、こっそり卓也のロッカーに返した。しかし、逆に卓也から謝罪されることによって、友人を裏切っていることへの自責の念と自分を正当化する心の弱さに揺れ動く。自分の弱さや醜さを克服する強さ、気高く生きようとする心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志を育てることができる教材である。

## 5 校内研との関連

### 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりを通じた学力向上のための研究」  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図った授業づくりを通して～  
道徳科における研究内容

「考え、議論する道徳」への質的変換を図り、多面的・多角的な思考による「深い学び」につながる授業方法を工夫する。

## 6 「考え、議論する道徳」へ向けた工夫

### (1)考えさせる工夫

- ・事前アンケートを実施し、アンケート結果を共有することで、誰でもしてはいけないと思ってもできない心の弱さをもっていることに気づかせる。そして、主人公の思いを自分事として捉えることで、考えを深めさせる。
- ・周囲の人の反応や発言から、主人公の心の弱さと良心との間で葛藤する思いや、感情の揺れ動きの心情を捉えさせる。
- ・終末の場面で、学習を通して考えたことや他の人の意見を聞いて新たにわかったことを記入し、自分のこれからの学校生活への過ごし方や思いについて考えさせる。

## (2) 議論する工夫

- ・ワークシートに記入する場面は、中心発問と終末のみとし、生徒が発言する場面をできるだけ多く設定する。
- ・授業のねらいである「誰しも自らの弱さや醜さを克服しようとする強さや気高く生きようとする心があることを理解し、状況に合った適切な行動をしようとする態度を養う」に迫る中心発問を設定する。
- ・話し合いは3～4人の小グループとし、発言の機会を増やして意見交換しやすくする。
- ・話し合う場面と話を聞く場面のめりはりをしっかりとつける。
- ・少数の意見も適切に取り上げ、多面的・多角的に物事を考えられるようにする。

## 7. 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ◆評価の視点
事前	Forms を使ったアンケートで質問に答える。 ①あなたはこれまで、してはいけない(悪いこと)とわかっているけど、ついやってしまったことはありますか。 ②それはどんなことですか。具体的に教えてください。	②について ・宿題をやらずにゲームをやった。 ・親と約束した時間を守らずスマホを使った。 ・友達が悪口を言ってしまった。	
導入 3分	・事前にとったアンケートの結果を共有する。		・誰にでも心の弱さがあることに気付かせる。
展開 37分	・「銀色のシャープペンシル」の登場人物について全体で確認する。 3人の挿絵を貼る。  ○「今日は主にこの3人がお話の中に登場します。主人公のぼくがどんな気持ちや状況になっているか注目しながら読んでいきましょう。」 ・資料の前半を範読する。 (P106～108の16行まで)		

<p>・登場人物の状況や関係性を全体で確認して、内容をつかむ。</p> <p>「これは前に自分で買ったんだぞ。」と言ったぼくはどんな気持ちだったんだろう？</p> <p><b>【補助発問】</b> ぼくがとった言動でどんな点が問題ですか。</p> <p>○「この後、ぼくはどうするでしょうか。後半を読んでみましょう。」</p> <p>・資料の後半を範読する。 (P108 の 19 行目～最後まで)</p> <p>◎卓也が謝ってきたとき、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。</p> <p>・個人で意見を付箋に記入する。 ・小グループで意見を交換する。 ・全体で意見を共有する。</p> <p>○なぜ卓也の家に向かって歩き出したのですか？</p>	<p>・嘘をついてしまった。 ・とっさに言ってしまった。 ・ごまかしてしまった。</p> <p>・嘘をついている。 ・健二や卓也のせいになっている。 ・人のものを取っている。</p> <p>・自分のやったことが恥ずかしい。 ・情けない。 ・自分が謝らないといけないのに卓也に謝らせてしまった。 ・卓也が謝ってきてラッキー。</p> <p>・正直に謝るため。 ・このままではいけない。 ・自分が悪かったことを伝えたいから。</p>	<p>◆①自らの弱さや醜さを克服しようとする強さや気高く生きようとする心があることに気付き、自分なりの考えを深めようとしていたか。(発言・観察・記述)</p> <p>・意見をまとめたシートはテレビ画面に映して共有する。 ・道徳的価値について考えさせる。</p>
---	--	--

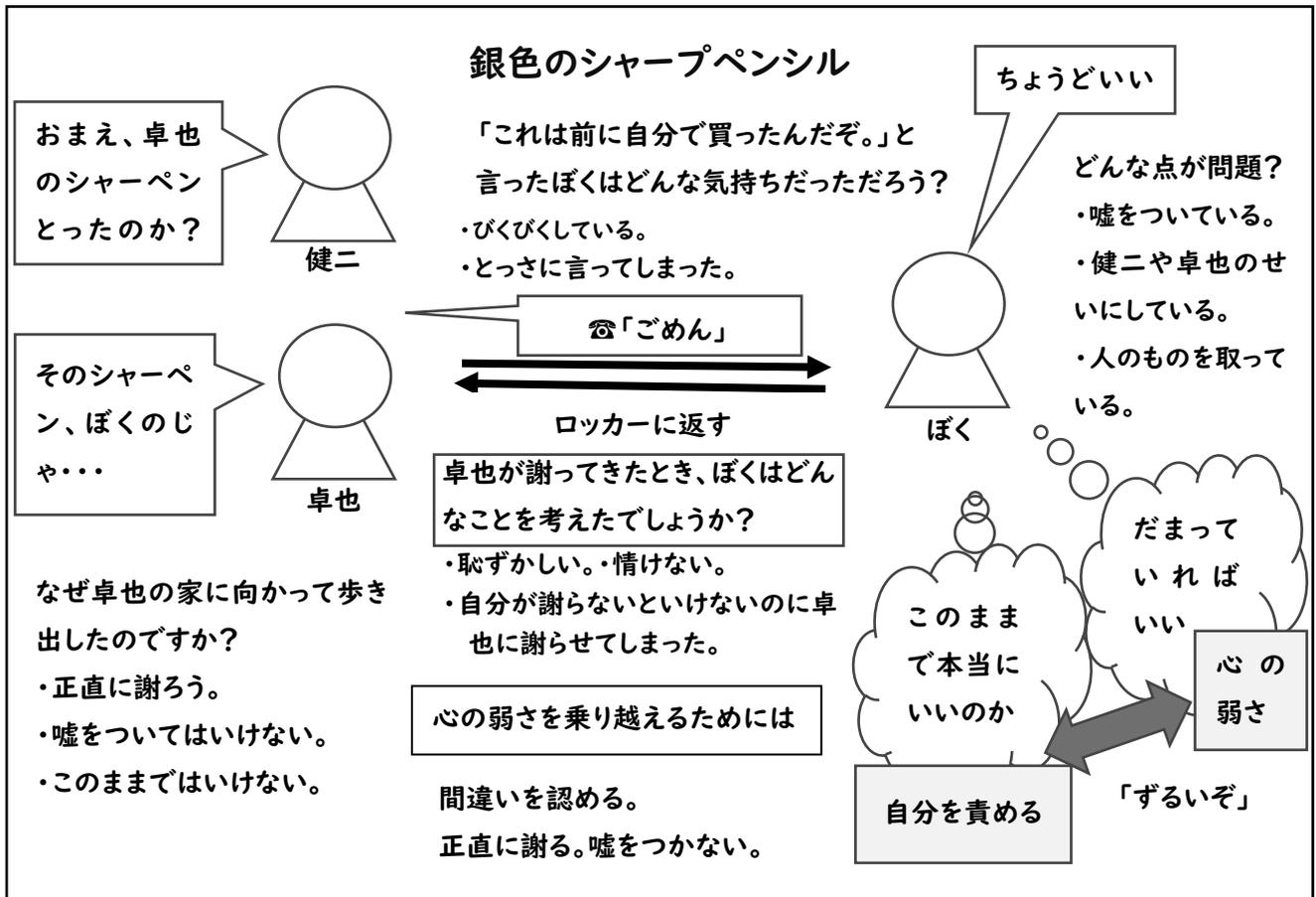
<p>終末10分</p>	<p>○心の弱さを乗り越えるには、どのようにしたらよいだろう。授業を通して考えたことや感じたこと、大切だと感じたことを記入しよう。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入したことを発表する。</li> <li>・振り返りを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪いことをしても正直に謝ったり、相手に伝えたりすることが大切。</li> <li>・自分のことだけを考えないで相手のことも考える。</li> <li>・失敗をしても、よくしようと行動すれば成長につながる。</li> </ul>	<p>◆②心の弱さについて理解し、自分たちの日常生活でどのようなことを意識して生活していけばよいか考えを深めることができるか。</p> <p>(観察・記述・発言)</p>
--------------	--	---	---

8. 評価の視点

- ①誰しも自らの弱さや醜さを克服しようとする強さや気高く生きようとする心があることに気付いていたか。
- ②心の弱さを克服することで、よりよい生き方ができることを自分たちの日常に立ち返り、思いや考えを深めようとしていたか。

9. その他

板書計画



## 18 銀色のシャープペンシル

【内容項目 D(22)「よりよく生きる喜び」】

11月6日(水) 1年1組 \_\_\_\_\_ 番 名前 \_\_\_\_\_

1. 「これは前に自分で買ったんだぞ。」と言ったぼくはどんな気持ち  
だっただろう？

2. 卓也が謝ってきたとき、ぼくはどんなことを考えたでしょうか？

3. 心の弱さを乗り越えるにはどうしたらよいだろう。授業を通して  
考えたことや感じたこと、大切だと感じたことを記入してみよう。

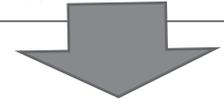
4. 今日の授業の振り返り (A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった)

(1) 授業に積極的に(意欲をもって)参加した。	A	B	C	D
(2) 自分の考えをもち、友達に伝えることができた。	A	B	C	D
(3) 自分の考えと照らし合わせながら、友達の考えを聞くことができた。	A	B	C	D
(4) 授業の内容について、深く考えることができた。	A	B	C	D

◆資料 1-1 (年間指導計画の見直し)

R5 第1学年:道徳年間指導計画

月	担当	資料名	改訂内容項目	指導のねらい	
4	学級担任	入学式 始業式 日帰り学習 部活動組織会	1 朝市の「おはようございます」	B(7) 礼儀	○相手の人格を認め、相手に対して尊敬や感謝などの気持ちを具体的に示すことの意義を理解し、時と場に応じた適切な行動をとろうとする心情を育てる。
			2 選手に選ばれて	C(10) 遵法精神、公德心	○権利と義務の関係を多面的・多角的に捉え、思いやりの心をもって、正しく権利を主張し、主体的に義務を果たそうとする心情を育てる。
			3 自分の性格が大嫌い!	A(3) 向上心、個性の伸長	○自分を客観的に見つめ、自身の良さや個性を伸ばし、充実した生き方を追求しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
5	蒔苗先生	教育相談 前期生徒総会 運動会	4 いじめに当たるのはどれだろう	B(9) 相互理解、寛容	○いじめに当たる行為や判断の根拠について考え、話し合うことを通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を見逃さない態度を育てる。
			5 傍観者でいいのか	A(1) 自主、自律、自由と責任	○傍観者の視点から「いじめ」について考えることを通して、人間の弱さを克服し、自らの意志や判断で責任ある行動をすることの大切さに気づき、いじめを抑制する態度を育てる。
			6 ふたつの心	B(8) 信頼、友情	○いじめの起こっている状況をさまざまな視点から見つめることで、いじめについての理解を深め、いじめ問題を解決しようとする意欲を育てる。



R6 第1学年:道徳年間指導計画「新訂 新しい道徳1」(東京書籍)

月	担当	行事	資料名	改訂内容項目	指導のねらい	関連教科
4	学級担任	入学式・始業式 新入生を迎える会 交通安全教室 日帰り学習 部活動組織会	1 朝市の「おはようございます」	B(7) 礼儀	○相手の人格を認め、相手に対して尊敬や感謝などの気持ちを具体的に示すことの意義を理解し、時と場に応じた適切な行動をとろうとする心情を育てる。	英語
			2 選手に選ばれて	C(10) 遵法精神、公德心	○権利と義務の関係を多面的・多角的に捉え、思いやりの心をもって、正しく権利を主張し、主体的に義務を果たそうとする心情を育てる。	保健体育
			3 自分の性格が大嫌い!	A(3) 向上心、個性の伸長	○自分を客観的に見つめ、自身の良さや個性を伸ばし、充実した生き方を追求しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。	学級活動
5	葛西先生・学担	教育相談 前期生徒総会 運動会	4 いじめに当たるのはどれだろう	B(9) 相互理解、寛容	○いじめに当たる行為や判断の根拠について考え、話し合うことを通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を見逃さない態度を育てる。	学級活動
			5 傍観者でいいのか	A(1) 自主、自律、自由と責任	○傍観者の視点から「いじめ」について考えることを通して、人間の弱さを克服し、自らの意志や判断で責任ある行動をすることの大切さに気づき、いじめを抑制する態度を育てる。	学級活動
			6 ふたつの心	B(8) 友情、信頼	○いじめの起こっている状況をさまざまな視点から見つめることで、いじめについての理解を深め、いじめ問題を解決しようとする意欲を育てる。	学級活動
			7 山に来る資格がない もし、あどきにもどれるのなら	A(2) 節度、節制	○登山中、自分勝手な判断で行動した五人の言動を考えることを通して、節度と節制に心がけ、望ましい生活習慣を進んで身につけようとする態度を育てる。	保健体育

◆資料 1-2 (別葉の活用)

R6 道徳と教科等との関連 尾上中学校1学年 年間カリキュラム(別葉)

教科他/月	4月	5月	6月	7月	8月
道徳	1「朝市の「おはようございます」」	4「いじめに当たるのはどれだろう」	6「班での出来事」	9「ほくのふるさと」	11「いのちって何だろう」
年間35時間 週1時間	内容項目 B-(7) 礼儀 特質 随想、知見 関連 英語、学級活動、入学式、 対面式	B-(9) 相互理解、寛容 生活、知見 学級活動	B-(8) 友情、信頼 生活、葛藤 保健体育、学級活動	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 作文、知見 社会、総合的な学習の時間、 学級活動	D-(19) 生命の尊さ 論説、知見 保健体育、 総合的な学習の時間
	2「選手に選ばれて」	「傍観者でいいのか」	7「新しいプライド」	10「あなたはひかり」	
	内容項目 C-(10) 遵法精神、公德心 特質 生活、葛藤 関連 保健体育、学級活動、 生徒会活動	A-(1) 自主、自律、自由と責任 生活、葛藤 学級活動	C-(13) 勤労 論説、知見 家庭、総合的な学習の時間、 学級活動	D-(19) 生命の尊さ 詩、感動 総合的な学習の時間	
	3「自分の性格が大嫌い!」	「ふたつの心」	8「薬番号に乗って」		
	内容項目 A-(3) 向上心、個性の伸長 特質 論説、知見 関連 学級活動	*複数内容項目 生活、葛藤 学級活動	C-(12) 社会参画、公共の精神 作文、感動 家庭、特別活動		
		5「山に来る資格がない」			
		内容項目 A-(2) 節度、節制 特質 生活、葛藤 関連 保健体育、学校行事(林間・臨海学校 等)			
学校行事	始業式 A-(4) B-(7) 身体測定 A-(2)	教育相談 A-(3) 前期生徒総会 C-(15) 運動会 A-(2) A-(4) C-(10) C-(15) 避難訓練 A-(2) D-(19)	中体連 A-(4) B-(6)	大掃除 C-(12) C-(15) 保護者面談 A-(3) 1学期終業式 A-(2) B-(7)	2学期始業式 A-(2) B-(7)
特別活動	年間 35 時間 週1 時間 新入生歓迎会 B-(6) 新年度目標の設定 A-(4) 新年度組織の決定 C-(15)	生徒会総会 A-(1) C-(15) 生活上の悩み解消 A-(2)	中体連壮行会 B-(6) 中体連報告会 B-(6) 専門委員会 C-(15) 健康で安全な生活 A-(2) 募金活動 B-(6)	専門委員会 C-(15) 1学期の反省と夏休みの生活 A-(2)	2学期の目標設定 A-(4)
総合的な 学習の時間	年間 50 時間	※総合的な学習の時間のねらいをふまえ、各学校におけるカリキュラムと道徳の価値項目を適宜関連させて指導する。			

◆資料2 (ローテーション道德 担当者表)

1年	年間行事	週	担当
4	入学式・始業式 日帰り学習 部活動組織会	1	
		2	学担
		3	
5	教育相談 前期生徒総会 運動会	4	葛西先生
		5	学担
		6	学担
		7	学担
6	中体連夏季大会 1学期実力テスト	8	中村先生
		9	学担
		10	学担
7	1学期終業式 保護者面談	11	校長先生参加
		12	学担
8	2学期始業式	13	学担
9	新人戦	14	中村先生
		15	学担
		16	学担
10	尾中祭 生徒会選挙	17	山平先生
		18	学担
		19	工藤先生
		20	学担
11	後期生徒総会 教育相談 2学期実力テスト	21	中村先生
		22	学担
		23	学担
		24	学担
12	保護者面談 2学期終業式	25	葛西先生
		26	学担
		27	学担
1	3学期始業式	28	中村先生
		29	学担
2	進路学習 3学期実力テスト	30	山口先生
		31	学担
		32	学担
		33	学担
3	卒業式 修了式・離任式	34	葛西先生
		35	学担

2年	年間行事	週	担当
4	入学式・始業式 部活動組織会	1	
		2	学担
		3	
5	教育相談 前期生徒総会 運動会	4	蒔苗先生
		5	学担
		6	学担
		7	学担
6	中体連夏季大会 1学期実力テスト	8	山口先生
		9	学担
		10	学担
7	職場体験 1学期終業式 保護者面談	11	工藤先生
		12	学担
8	2学期始業式	13	学担
9	新人戦	14	蒔苗先生
		15	学担
		16	学担
10	尾中祭 生徒会選挙 進路学習	17	校長先生参加
		18	学担
		19	学担
		20	学担
11	後期生徒総会 教育相談 2学期実力テスト	21	工藤先生
		22	学担
		23	学担
		24	学担
12	保護者面談 2学期終業式	25	教頭先生
		26	学担
		27	学担
1	3学期始業式	28	山口先生
		29	学担
2	修学旅行準備 3学期実力テスト	30	山平先生
		31	学担
		32	学担
		33	学担
3	卒業式 修了式・離任式	34	蒔苗先生
		35	学担

3年	年間行事	週	担当
4	入学式・始業式 修学旅行 部活動組織会	1	
		2	学担
		3	
5	教育相談 前期生徒総会 運動会	4	齋藤先生
		5	学担
		6	学担
		7	学担
6	中体連夏季大会 1学期実力テスト	8	山中先生
		9	学担
		10	学担
7	思春期教室 1学期終業式 保護者面談	11	角田先生
		12	学担
8	2学期始業式	13	学担
9	実力テスト 保育体験	14	山平先生
		15	学担
		16	学担
10	尾中祭 生徒会選挙	17	齋藤先生
		18	学担
		19	学担
		20	学担
11	後期生徒総会 教育相談 2学期実力テスト	21	山中先生
		22	学担
		23	学担
		24	学担
12	保護者面談 2学期終業式	25	校長先生参加
		26	学担
		27	学担
1	3学期始業式	28	学担
		29	学担
2	私立高校入試 実力テスト	30	山中先生
		31	学担
		32	学担
		33	学担
3	県立高校入試 卒業式・離任式	34	齋藤先生
		35	学担

◆資料3 (授業ワークシート)

【ワークシートに記載する必須事項】①～⑤以外の部分は授業者が工夫してワークシートを作成する  
 ①年月日 ②教材(資料)名 ③内容項目 ④生徒氏名欄 ⑤今日の授業の振り返り

▼ワークシート例

タイトル

年 組 番 氏 名

相互理解、寛容

(1) この部分は、中心発問についての考えを書かせたり、扱った内容項目(道徳的価値)をどう感じたかをまとめさせたりするなど、各先生方が工夫してください。

(2)

◎今日の授業で学んだこと

生徒自身が振り返りしやすいように4つの項目にしています。教師用指導書についているワークシートの振り返り部分の語尾を変えた形です。

◎今日の授業の振り返り (A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった)

(1) 授業に積極的に(意欲をもって)参加した。	A	B	C	D
(2) 自分の考えをもち、友達に伝えることができた。	A	B	C	D
(3) 自分の考えと照らし合わせながら、友達の考えを聞くことができた。	A	B	C	D
(4) 授業の内容について、深く考えることができた。	A	B	C	D

基本形を基に、授業者が作成

◎道徳ワークシート②

選手に選ばれて

令和6年 月 日

▽内容項目 C(10)「道徳精神、公徳心」 1年 組 番 氏 名

(1) クラスのみんなは、どんな気持ちで「出ない」ということは (2) Aくんは、どんな気持ちで「出たくないから出ない、勝手にしませんか。」と言ったのだろう。 と言ったのだろう。

(3) Aくんは、リレーに出なければいけないか、出なくてもよい。 出なければいけない・出なくてもよい 理由:

(4) 「選ばれた以上、クラス全員の代表として出場する義務がある。」というみんなの意見を、どのように思うか。

グループで話したことになった意見他のグループで出た意見に気になった意見をメモしよう。

他の意見を聞いて、改めて自分の意見を書こう。

この教材を通して学んだことを記入しよう。

◎今日の授業の振り返り (A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった)

(1) 授業に積極的に(意欲をもって)参加した。	A	B	C	D
(2) 自分の考えをもち、友達に伝えることができた。	A	B	C	D
(3) 自分の考えと照らし合わせながら、友達の考えを聞くことができた。	A	B	C	D
(4) 授業の内容について、深く考えることができた。	A	B	C	D

◆資料4 (授業振り返り用紙)

(R5)

★自分の学びをふり返ろう★

期末 組 番

1 授業の取り組みについてふり返ってみよう。 A:素晴らしいできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

1. 教材について、興味をもって読みましたか?	A B C D
2. 自分の考えをもち、友達に伝えることができたか?	A B C D
3. 友達の考えを、自分の考えと照らし合わせながら聞くことができましたか?	A B C D
4. 授業の内容について、深く考えることができたか?	A B C D

2 今学期(今期)に読んだ教材の中で、心に残ったものは何ですか。どのようなことが心に残っていますか。

教材名	心に残ったことなど

3 今学期(今期)をふり返って、道徳科の授業で学んでよかったことはどのようなことですか。

4 来学期(来期)の道徳科の授業には、どのように取り組もうと考えていますか。

(R6)

★道徳★ 1 学期の学びをふり返ろう

年 組 番 氏 名

[1] 授業の取り組みについてふり返ってみよう。 A:とてもよくできた B:よかった C:あまりできなかった D:できなかった

① 毎時間、意欲をもって授業に参加できましたか。	A B C D
② 毎時間、他の人の意見を聞き、自分の考えを広げたり、深めたりできましたか。	A B C D
③ 毎時間、自分と関連させて考えることができましたか。	A B C D

[2] 1学期に学習した授業の中で、心に残ったものを2つ挙げてください。

【教材名】	【教材名】
○上に挙げた授業であんなほんなことを学びましたか。	○上に挙げた授業であんなほんなことを学びましたか。

[3] 2学期の道徳の授業には、どのように取り組もうと思っていますか。

保護者サイン

# 希望の心



文責 道徳教育推進教師 中村 しのぶ

## 自分の未来は自分でつくる～自律と自立～

9月19日(木)、講師にメンタルプロコーチである津村 柁広さんをお迎えして道徳講話を行いました。ワクワクする未来をつくるために自分の心は自分で整えること(自律と自立)の大切さを語っていただきました。



講話の中では、パフォーマンスを高めるためには「ワクワク」と「のびのび」の両方の状態が必要であるという「逆U字理論」(下記の図を参照)を解説していただき、前向きな心の状態がいかに大事であるかを再確認しました。勉強があまり好きではない、という人も好奇心しただいで勉強も楽しくなるものだ、というお話もありました。一見、似たような言葉に聞こえる「ゆるゆる」と「のびのび」ですが、リラックス状態にある「ゆるゆる」とやる気のある「のびのび」は意味が違うということも教えてもらえましたね。

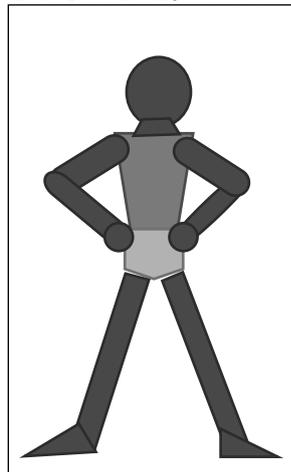
そして、心を整えるための4つのルーティンを学びました。まず一つ目は、表情。中でも「笑顔」でいることがいいということでした。体験として、「全力ジャンケンあっちむいてホイ」をやりました。体育館には大きく明るい声が響き渡るとともに、自然と笑顔が生まれ、前向きになるのを実感できた人が多かったようです。

続いて二つ目は、姿勢。やる気がでる姿勢の一つとして「パワーポーズ」を教えていただきました。やる気が出るベスト1ポーズは「スーパーガール」ポーズ(右の写真参照)で、実際にみんなでやってみましたが、たしかにこのポーズをとって、落ち込んだ気持ちになる人はいないと感じることができました。「この「姿勢」という点に関して、「姿勢を整えれば心がついてくるのだ」という津村さんの言葉に「なるほど」と思えた人は多かったのではないのでしょうか。私たちはどうしても気持ちができてから行動がついてくると思いがちですが、実はそうではなく、「形(姿勢)から」であったということです。「スーパーガール」ポーズをとって沈んだ気持ちにならなかったように、「姿勢が心を決める」のであり、前向きな気持ちを生み出すルーティンとして、ぜひとも取り入れていきたいものです。

三つ目は、呼吸。自分の心を落ち着けるためのものです。特に怒りをコントロールするときに有効だそうです。呼吸と感情は一致するとのことで、呼吸を整えることで気持ちが整い、集中力も増すということでした。講話の中では「平常心最強」説が唱えられていましたね。準備したことはできるが、準備していないことはできない。強いチームこそいつも通りであり、ふだんが大事だ、ということを熱弁されていました。言われてみればたしかなことですが、忘れがちではありますよね。毎日の生活を大切にしたいものです。ちなみに、深呼吸は「吸ってから吐く」のではなく、「吐いてから吸う」のが正しい方法だそうですよ。

そして、最後四つ目のルーティンは言葉。ポジティブな言葉にフォーカスするということでした。特に、「いい

発行時には図あり



ね」、「ありがとう」、「大好き」などの言われてうれしい言葉、つまりプラス(ポジティブ)な言葉がプラス(ポジティブ)思考を促し、いい行動へつながるということでした。仲間から「一分間褒められまくる」という体験をして、心が嬉しくなった人が多かったのではないのでしょうか。また、「自分との対話(コミュニケーション)を大事にしてほしい」と津村さんはおっしゃっていました。「自分との対話でどれだけポジティブな言葉を言えるか、自分のいいところを見つけて褒める！自分を大切にすること。言葉が変わると、結果が変わる。」と。

さて、今回の道徳講話を通して、一人一人がワクワクする未来の作り方を考えることができたと思います。以下に、講話を聴いての感想を紹介します。



## 生徒の感想より



- ・話がわかりやすかった。1つ目の「笑顔」のあっちむいてホイで楽しくなって、本当に笑顔になれた。4つ目の「フォーカス」ですごくうれしくなれた。今回で、言葉の大切さがわかった。〔1年男子〕
- ・ポジティブなことを考えるときがあまりなかったので、落ち込んだときにはポジティブなことを考えていきたい。友達に「やさしい」、「かわいい」など言ってもらえて心も体もうれしくなった。〔1年女子〕
- ・津村さんの話を聞いて、心にゆとりをもつことができた。今まで頑張りすぎたり、責任を感じてしまったりして失敗することが何回かあった。今度からは頑張りすぎず、ゆるみ過ぎず、自分が楽しくいられる程度にチャレンジしていこうと思った。今日教えてもらったルーティンで自分をほぐしてリラックスしながら楽しく生活していこうと思った。〔1年女子〕
- ・今日の道徳講話を聞いて、私はもっと人をほめたいと思った。ほめると人は笑顔になり、心がはずむとよくわかったからだ。私は部活の試合でメンバーがミスったり、チームがピンチになったりするといらだちが勝り、強く言うてしまうくせがある。でも、今日の講話で、いらいらしないで笑顔やポジティブに試合をすれば勝てるし、雰囲気よくなることがわかった。これからは、ミスやピンチのときこそ笑顔を大事にして試合をしたいと思った。〔2年女子〕
- ・今日の講話を聞いて、自分・相手との関わり方について知ることができた。笑顔で生活すること、緊張の時は深呼吸(吐いてから吸う)がいいということを知った。普段、友達からほめられる機会があまりなかったので、今回の活動でのほめ合いは新鮮だった。これからは、ほめ合いたいと思った。〔2年男子〕
- ・人は気持ちの波が激しいということはよく知っていたけど、それを少しでもなくせる工夫があるということを知り、とても驚いた。人の感情が呼吸にも影響しているというのがとても興味深かった。私は気持ちの差が激しく、一度怒ったら抜け出せなくなるのですが、今日聞いたことを参考に、怒ることに使っている時間を少しでも減らせるようになりたいと思った。〔2年女子〕
- ・もっと自分の心の改め方を見直してみようと考えたい機会になった。体が先に動いて気持ちが変わることは知っていたけど、道徳講話を聞いて思い返してみると、気持ちが沈んでいるときに自分で何とかしようとしていたことが少なかったのではないかと思った。元気が必要になるときは、自分の力で心を変化させていきたいと思った。〔3年男子〕
- ・人に対してネガティブな発言をしたり、嫌なところばかりを見つけてしまったりしがちでしたが、それもポジティブに変えられるということが分かった。「人間は長所で尊敬され、短所で愛される」という言葉を聞いて、短所も見方を変えれば長所になるし、ポジティブは大事だと思った。〔3年女子〕
- ・メンタル(心の状態)について、自分で自分をコントロールできるようにもっと自分のことを知っていきたくてと思った。何かにチャレンジするときに、最初に大きな目標を立ててしまいがちなので、簡単にできることからこつこつと積み重ねてチャレンジしていけるように頑張りたい。今日の話は、進路にもかかわってくる話だったのでとてもありがたかった。〔3年女子〕

# R6 道徳教育全体計画

平川市立立上中学校

## 学校の教育目標

「他者を理解し、心身ともにたくましく、  
自ら学ぼうとする生徒」

- 仲間を思いやり、礼儀正しい生徒（徳）
- 心と体を鍛え、最後までやり抜く生徒（体）
- 仲間とともに考え、自ら学ぼうとする生徒（知）

## 教師・保護者の願い

- 他者との関わりの中で、礼儀を大切にしながら、思いやりと感謝の気持ちをもって接することができる生徒
- 何事にも積極的に取り組み、目標の実現に向けてやり抜く生徒
- 自他の生命を尊重し、互いの良さを認め合いながら、主体的に考え行動できる生徒

日本国憲法 教育基本法  
学校教育法 学習指導要領  
青森県学校教育「指導の方針と重点」  
中南教育事務所「指導の方針と重点」  
平川市学校教育「指導の方針と重点」

## 各教科との関連

- 国語：言語活動を通して、日本文化を尊重する態度を育てる。
- 社会：法の精神を理解し、社会の秩序と規則を高める態度を育てる。人間尊重の精神について理解を深め自立的自主的の態度を養う。
- 数学：論理的な考え、筋道を立てて物事に取り組むことにより、合理的に心理を追求する態度を育てる。
- 理科：自然に親しみ、生命の大切さ、感動する心、畏敬の念を深め、愛情をもって接する心を育てる。
- 音楽：合唱や器楽演奏を通して自分の役割を理解し、同時に美しいものに感動する心を育てる。
- 美術：創作、制作や鑑賞を通して、感動する心を育てる。
- 保健：生命を尊重し、安全保持に努め、スポーツ精神を養い、生活を豊かにする態度を養う。
- 技家：進んで物事に取り組む、生活向上のため、創意工夫をする態度や実践力を養う。
- 外国語：外国語の理解、表現活動を通して国際理解を深め、同時に異文化と日本文化の素晴らしさを理解し、その良さを伸ばしようにする心情を育てる。

## 道徳教育の重点目標

- 互いの個性や立場を尊重し、生命尊重や思いやりの心を育む
- 規範意識を高め、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養う
- 自分の弱さを克服して、強い意志をもってやり抜こうとする態度を養う

## 生徒の実態

- 素直で明るい生徒が多い。
- 決められたことや、行事や部活動に積極的に参加している。
- △特定の仲間以外との関わりが苦手
- △自己理解・他者理解の弱さから自己肯定感が低い。

道徳性検査では全般的に道徳的心情・判断力は望ましい傾向にあるという結果であったが、道徳実践力に結びつかない場面も見られる。

## 各学年の指導の重点

学年	重点
第1学年	①発達段階に応じた「考える道徳」「議論する道徳」の効果的な授業展開により、望ましい道徳性を養う。 ②生命尊重に重点を置き、いじめ防止や安全教育、危機管理など、日常生活に生かされる支援に努める。 ③自分自身について深く見つめ、未来へと続く自身の生き方を考える力を育む。
第2学年	①自然や生命を尊重し、自他ともにかけがえない命を大切にすることを育てる。 ②相手の立場を理解し、思いやりのある気持ちを持ち、互いに認め合う心を育てる。 ③集団の一員としての自覚を高め、ルールを守り、仕事を粘り強くやり抜こうとする心を育てる。
第3学年	①相手の立場を理解し、思いやりの気持ちを持ち、互いに認め合う心を育てる。 ②集団の一員としての自覚を高め、ルールを守り、仕事を粘り強くやり抜こうとする心を育てる。 ③人生に真剣に向き合い、強い意志をもって生きようとする心を育てる。

## 特別活動

- 学級活動：学級や学校の生活上の諸問題を見出し、自主的に取り上げ、協力して課題解決していく自発的、自治的な活動を通して、よりよい人間関係の形成や生活づくりに参加する態度を養う。
- 生徒会活動：全校生徒が学校におけるよりよい生活を築くために、異年齢の生徒同士で協力し、主体的に組織をつくり、役割分担や計画を立て、話し合い解決しようとする実践的態度の育成を図る。
- 学校行事：職場体験活動やボランティア精神を養う活動などの社会体験を通して、よりよい人間関係の形成や自立的態度を養う。

## 生徒指導

- 共感的な生徒理解を図るとともに、生徒一人一人が目標をもって将来を展望し、自己実現を図ろうとする態度を養う。
- 人権意識や感覚を高め、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度の育成を図る。

## 道徳科の指導方針

- 思いやり、相互理解、規則の尊重、よりよい学校生活、よりよく生きる喜びに重点を置き、体験的活動を中核とした全教育活動を通して豊かでたくましい心を育成する。
- ICT機器を効果的に活用しながら、「考え、議論する道徳」へと質の変換を図り、多面的・多角的な思考による「深い学び」ができるような授業方法を工夫する。
- 学校行事等の実践活動や問題解決的な学習を通して、人間としての在り方や自己の生き方についての考え方を深めさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。

## 総合的な学習の時間

- 横断的・総合的な学習を探究的な見方・考え方を働かせを行うことを通して、自己の生き方を考えようとする態度を養う。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、積極的に社会参画しようとする態度を養う。

## 学級経営・教育環境の整備

学級の信頼関係や温かい人間関係を基盤とした集団を育むとともに、道徳実践意欲を高める環境づくりに努める。

- ・生徒と教師、生徒同士の心の交流
- ・教育相談活動の充実
- ・あいさつ運動の推進
- ・校内美化の推進
- ・図書室の整備と充実

## 道徳教育の推進体制

校長の方針を踏まえ、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開する。

- 道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、支援体制の推進と道徳科の充実を図る。
  - ・校内研修の充実と活性化
  - ・近隣校の道徳教育推進教師との連携
- 生徒の実態から重点目標を明確にし、全教師による共通理解のもと、道徳教育の実践に努める。
  - ・道徳用教材の整備・充実・活用
  - ・道徳教育の情報提供や情報交換
- 各教科等における、教師の用いる言葉や生徒への接し方といった、教師の態度や行動により、望ましい道徳性を養う。
  - ・和やかな笑顔、愛情ある言葉
  - ・寄り添い、認め、励ます姿勢

## 家庭・地域等との連携

- 生徒の家庭的・地域的背景の理解
  - ・家庭環境調査（個人票配付）（4月）
  - ・教育相談（5月・11月）
- 家庭・地域への啓発
  - ・授業参観（5月・10月）
  - ・運動会（5月）
  - ・尾中祭（10月）
  - ・PTA広報誌「はちのす」
  - ・学校通信、学年通信、学級通信
  - ・地域の人材活用
- 地域の環境・家庭環境の改善
  - ・生徒の、家庭、地域での望ましい生活習慣の定着化
  - ・PTA専門委員会の自主的な活動の定着化



令和6年度

よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業報告集

令和7年3月

編集・発行 青森県道德教育推進協議会

